

幼の教育

第三十三卷 七月號 第七號



東京女子高等師範學校內
日南幼稚園協會

東京美術
學校教授

小林萬吾・中村亮平共著

菊判全一冊洋綴原色版圖四葉コロタイプ
四葉、定價金三圓三十錢、送料金十八錢

新刊

參考世界美術讀本

西洋篇

美術の鑑賞
と教育の本
と堂は書
と殿は漸
に據り開
に據り開

人類文化の一面を燦かに彩れる美術の鑑賞が教育の情操方面に寄與する効果は實に偉大なものである。併し美術の殿堂は廣くして深く其の全般を直ちに窺ひ得ず。之れが好個の手引は萬人の期待する所である。本書は此目的に於て、古代西班牙アルタミラの洞窟壁畫の原始美術から埃及。メソポタミア。希臘。羅馬初期キリスト教。ゴシックの各時代を経てルネッサンスに至り次でパロツク。ロココの美術より近代及現代に至る迄各時代を劃せし歐洲の代表的畫家、彫刻家等百數十名を挙げ先づ時代の思潮を述べ次で一々其作風、傾向、畫記、代表作家等を系統的に明白に興味深く紹介す。教育家の乞必讀。於て克く歐洲美術の概観を系統的に明白に興味深く紹介す。

帝國美術學院會員
東京美術學校教授
岡田三郎助
田羽禮介
共著

新刊 家庭學校 萬有圖畫全集 描き方	版五 家庭學校 應用圖案畫集 描き方	版六 家庭學校 クレヨン畫集 描き方	版三 家庭學校 應用略畫集 描き方	新刊 家庭學校 圖畫描き方 基本
菊判全一冊洋綴 定價四圓八十錢 送料二十七錢	菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢	菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢	菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢	菊判全一冊洋綴 定價二圓五十錢 送料十八錢
小學各學年の各科目修習、國語、國史、理科、地理等に取材し、クレヨン畫着色圖案畫、毛筆等にて描く。	勿論ボスター、表紙、裝幀、染物編物等克く圖案の作意を會得し、且つ製作家たるを得。	一本の線より順序を経て實例に於て説明し、て彩色の過程を學校教育に於ての必要を述べ、ありませう。	實物寫真と寫生圖と略畫の三様の比較を如實に示す等、用意周到、懇切丁寧を極めた教育畫集の寶庫であり、指導書であります。	作畫の第一階梯として一、圓型、二、三角型、三、四角型の之等の配置交錯に依り如何に簡單に描かるゝかを兒童に會得せしめるに努む。

發行所 東京市牛込區 中野文庫書店 電話 東京 三三三番 牛込 二二二番 電話 東京 二二二番 電話 東京 二二二番

學年期別

第一用より第六用まで
全六卷完成

お話全集

長尾の 豊話の 先本の 生本の

童話と其味ひ方・解説（實例による童話の研究）價二・一〇 送一二
 世界童話を時曲化する兒童劇脚本（六版） 價二・六〇 送一二
 幼稚園ばなし（第一集・第二集） 各價一・八〇 送一二
 歌とお話戯曲化の仕方集 仕方のついた作品數十篇 價一・八〇 送一二
 野外 夏期學校お話集 野外のお話とその仕方 價一・八〇 送一二
 於間 國語讀本教材お話集（尋一篇・尋二篇） 各價一・八〇 送一二
 短い對話と小さい劇 幼兒のお話遊びから小さい劇 各一・六〇
 お話遊びと小さい劇 いたるまでの作品と仕方 各一・一〇
 續短い對話と小さい劇 前二者の續篇（最新刊）價一・八〇 送一二
 唱歌あそびと小さい唱歌劇 作曲草川信氏 價二・〇〇 送一二

帝大助 青木誠四郎氏
 東京教授 野々村運市氏
 京都教授 蘆屋蘆村氏
 作家話 蘆屋蘆村氏

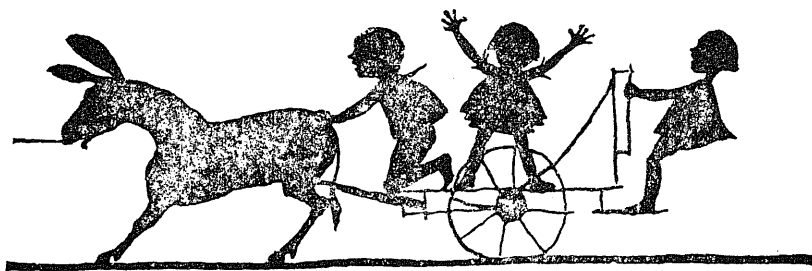
推薦序文

行届いた親切なお話の本の著者として定評ある長尾先生が多年の研究を一丸として小學全學年を一貫するお話の系統化を企てられたものがこの全集で、各學年ごとにお話の時間を調べて、それを基礎として本書一冊で一ケ年に亘つて十二分に利用できるやう各學年期別各冊六十數種のお話を網羅されたものです。收むる所低學年の幼兒啣より神話傳說童話寓話民話笑話史談逸話自然科史詩戲曲物語等古今東西に亘り各學年兒童の生活と心理に準じしかも兒童文藝として清新なる藝術味を附與する等、ありふれた編纂物とは選を異にし、全編著者の執筆になる點は斷じて類書の追従を許さないところでは、尋常三年生お話全集 四月出来）

四六判各冊三〇〇頁函入美本
 價各冊一圓八十錢送各十二錢
 預約本に非ず一冊づつ買へます。

學年期別・學期別あらゆる種類の話を網羅し教材と聯絡を圖つた兒童文藝の寶庫編纂物に非ず全部著者の責任ある執筆也

厚生閣書店
 東京 東區 東區 東區
 町 番 下 六 下 六 下 六
 四 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 八 番 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 電話 九 一 八 一
 段 八 一 二 三



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會 長
主 幹

東京女子高等師範學校長
東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

吉 岡 郷 甫
堀 七 藏

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ル
 ヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ
 關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノ
 トス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五
 錢ヲ融出スヘシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業
 ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員
 トナスコトアルベシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會
 ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ
 請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場
 合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
- 一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ
 開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
-
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其也本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル
 事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主 幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌
 理ス
- 幹 事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ
 分掌ス
- 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長
 ノ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノト
 ス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年チ期
 シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ
 又ハ書記ヲ雇入ル、アトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二
 以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコ
 トヲ得ズ



第三十三卷 幼 兒 教 育 第 七 號

—(次 目)—

口 繪

宇式かん女史

謹みて 特別拜謁の光榮に浴して……………宇式かん(二)

幼兒の運動と遊戯(二)……………堀 七 藏(四)

兒童と教科過程(三)……………大塚喜一原著(二三)

巴里市公立産院・托兒所・小兒病院・感化院……………宇佐美 敬(三)

歐米に於ける學校給食の現状……………原 徹一(三)

疫痢の豫防について……………井口 乘海(四)

久振りで鎌倉に行きて……………氏 原 銀(四)

童吃驚仰天——ドンちゃん——……………水谷年恵子(四)

人形 小兎とライオン……………山川 幸枝(五)

芝居 逆戯わたしの手わたしの足……………土川 五 郎(五)

夏の 草 花……………大 岩 金(五)

幸 吉 の 旅……………岡 田 み つ(七)

雜 錄 普通教育圖書科學理研鑽の劃て・文部省主催幼稚園保姆講習……………(八一)

夏季保育及遊戯講習

一、期 日 八月一日より四日迄四日間

二、時 間 午前八時より十二時迄 午後一時より五時迄 但場合により時間の延長あるべし

三、科目及講師

午 前 の 部

- 1、観察の理論及實際(四時間) 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三先生
- 2、觀察の取扱方(二時間) 本校顧問兼講師 岡崎 常太郎先生
- 3、幼兒の描き方(四時間) 見方、描き方、導き方、實習 東京市幼稚園視學 岡本 歸一先生
- 4、歐米の幼稚園教育の瞥見(二時間) 女子學習院教授 宇佐美 けい先生
- 5、手技と保育の實際問題(四時間) 所 長 土川 五郎先生

イ、新らしき手技の發表と實習

ロ、保育の實際問題

經營及設備を經濟的且有效ならしむるには。母の會等の組織及方法。保育項目の配當及取扱方。多數の幼兒を一人にて保育するには。入園兒の取扱等。

午 後 の 部

1、音 樂(四時間)

幼兒に適したる音樂の實地指導

東京音樂學校 校 教 官 梁 田 貞先生

2、律動及表情遊戯の實際(十四時間)

本年新作のもの

土川 五郎先生

霜夜のいたち 進軍ごっこ お醫者ごっこ 手の鳴る方へ 愉快 故郷の空 尺とり虫
足のあと まはりませう 私の手私の足 輪あそび 白ばら 龍田川 其他數種の内
既作のものの内より十數種

幼兒低學年高學年に配當して、運動會學藝會に適したるものを選び

四、會場 帝國教育會館 神田一ツ橋通一丁目 市電神保町下車

五、會費 午前之部金參圓 午後之部金參圓 兼修金五圓

六、申込所 七月二十五日迄に

東京市外大井町五二〇八番地土川五郎宛、爲替又は振替にて會費を添へ申込むこと、振替には通信欄に講習(午前午後又は兼修)と記し土川五郎宛に。一度納付せられた會費は返付致しません。
七、宿泊 帝國教育會内一橋寮又は指定の旅館御紹介致します。
一橋寮御希望の方は早く申込まれたし。

主催者 東京昭和保姆養成所

日本遊戯研究會

責任者 土川 五郎

電話 大森二二一〇

日本幼稚園協會總會
豫 告

日本幼稚園協會總會

來る七月二十六日午後一時より日本幼稚園協會總會を東京女子高等師範學校講堂に於て開催いたします。
丁度二十二日より同二十七日まで毎日午前中東京女子高等師範學校講堂に於て文部省主催の幼稚園保育に關する夏季講習會が開催せられますし、日本幼稚園協會主催の幼稚園遊戯講習會が七月二十三日より二十五日まで毎日午後一時より開催せられる好機會でありますから、本會會員各位は成るべくこの日本幼稚園協會總會に御出席下さいませ。

今回の總會に於ては會務報告などの後、女子學習院教授宇佐美先生の「歐米幼稚園の實際をみて」と題するお話があります。また東京文理科大學生小野直君の「幼児の面白がるお話」の實演があります。會費は無料であります。

夏季講習會

日本幼稚園協會主催幼稚園遊戯講習會を東京女子高等師範學校講堂で開催いたします。

一、期 日

昭和五年七月二十三日より二十五日までの三日間毎日午後一時より同四時まで

二、講師及題目

幼稚園に於ける遊戯の實際

東京府立第六高等女學校教諭 戸 倉 ハ ル

唱歌遊戯(汽車ぼつぽ、カラスの番雀の番、あんよのうた、兄弟雀、肌、ヒバリ、チヨコレット、だるまさん、子守唄、鬼ごっこ)
あそび(かたつむり、ぶらんこ、カクラベ、影法師、ダンカーの鐘、ホッポで仕立屋さん、ご機嫌よう、赤いエビ、高いたかい)

三、會 費

一人金貳圓(但し日本幼稚園協會會員は一人金壹圓五十錢)

四、申込手續

講習會入會希望者は住所、職、氏名を詳記し來る七月十五日までに東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會事務所宛にて御申込下さい。會費は日本幼稚園協會振替口座東京一七二六六番に御拂込下さい。

五、注 意

七月二十二日より同二十七日まで毎日午前八時より正午まで文部省主催の幼稚園に關する講習會が東京女子高等師範學校に於て開催せられる筈であります。しかしそれと本會主催の遊戯講習會とは全く關係がありません。それで文部省の講習會に出席希望者はその府縣に申込み許可を得ねばなりません。本會の講習會に出席希望者は「直接」東京女子高等師範學校附屬幼稚園内幼稚園協會に御申込下さい。兩者を取違ひぬやうに御注意下さい。

昭和五年七月

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日 本 幼 稚 園 協 會

東京女高師教授
附屬幼稚園主事

堀 七藏先生新著

——絕對に類書なく白熱的歡
迎、兩入、美本、堅牢、

頗る好評

歐米の幼稚園及 低學年教育の實際

頁〇六四版六四
餘十七版ト一ア
錢〇八圓二價定
錢四一料送

權威ある著者に
より切實なる問
題と斬新なる内
容にて盛られた
幼児教育關係者
の必讀書!!

特色

- 1、歐米の幼児教育を詳細に説述した著書は本書を措いて他にない。
- 2、その説明は一々に就いて綿密周到にして如實に參觀して居ると異ならない。
- 3、各地幼稚園の保育案、教育課程の實際を細録してあるから教育實地に絶好の參考書である。
- 4、幼稚園と低學年教育との聯絡問題解決に一大光明を與へる。
- 5、得がたい七十有餘の寫眞のみにも貴重な參考資料である。
- 6、各國各様の幼稚園を詳細に記してあるから一本にて幼稚園の百科全書となる。

東京女子高等
師範學校講師

文學士

金子彦二郎著

安心してそのまゝ與へられる趣味の新童
話集!
東京朝日新聞に掲載の「御話の仕方」も
載つて居る!!

大歓迎

新作
童話

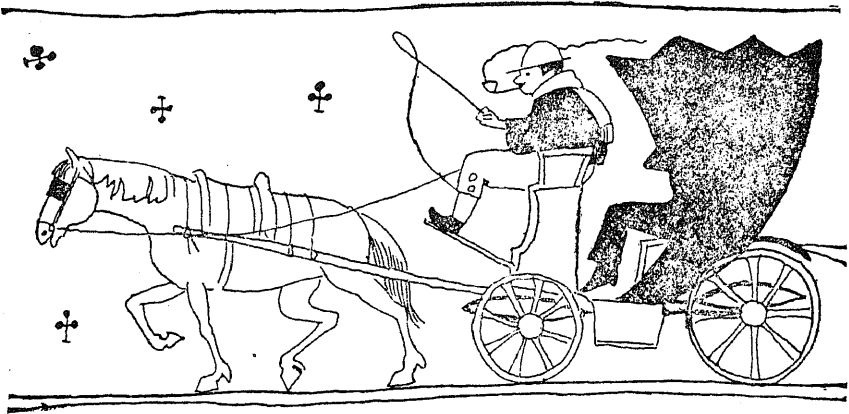
打たずに鳴る太鼓

四六版三六〇頁
定價壹圓三拾錢
送料拾貳錢

東京市外杉並町 昭々閣書房 振替四七四 東京四番



宇式かんな女史



號七第 育教の兒幼 卷十三第

月七年五和昭

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

謹みて 特別拜謁の光榮に浴して

私立静岡櫻花幼稚園長

宇 式 か ん

昭和五年五月二十八日から同六月三日迄一週間の、

天皇陛下静岡縣へ御巡幸に際し、教育功勞者五名の中に加へられ、勿體なくも私は幼稚園の進展として、御召出しにあづかり、五月二十八日午後二時參廳し、一時間の後午後三時静岡縣廳内務部長室に於て、玉座との距離僅か一間程の處で特別の思召を以て拜謁を賜はり、身に餘る無上の光榮に浴し、たゞく聖恩の有難さに感泣の外御座いませんでした。此の尊き思召に浴しました私は、好運の機に遭遇せし幸ある身と幾重にもありがたさが盡きませぬ次第で御座います。これは一人私のみの光榮でなく、御國の幼稚園教育にたづさはるものゝ光榮と喜びに堪へません。天皇陛下がかくも深く尊く大御心を幼稚園教育に注がせ賜ひますことをつよく心に銘じ、老年の身なれども殘る餘生を熱誠こめ、粉身努力し、一

層斯の道のため奉仕し、以て今度の聖恩の萬分の一にも報ひ奉らばやと誓ひます。静岡市の片ほとりの名もなきものが、此度かくの如く光榮に浴しました事は、誠に／＼に畏れ多き次第で深き感激に満ちて居ります。

倉橋教授再度の光榮

昨年、幼兒の心理を十回に亘つて、兩陛下に御進講申上げた倉橋教授は、今回また幼兒の保育事項につき三回に亘り 皇后陛下に御進講申上げる榮ある命を受けられ、去る二十六日第一回の參内をされた。もれ承る所によれば、お數へ年御六歳、幼稚園期にならせられし照宮様には、兩陛下の御思召しによつて六月三日より毎週火曜・金曜の二日、濱離宮で學習院幼稚園の園兒と共に遊ぶとばさるとの御ことなるが、其折柄此の御進講を召され給ふた事は、母陛下としての深き御心と恐懼し奉る所であります。と同時に此の事は幼兒教育の重大性を示されしものとして、我等幼兒教育に携はるものゝ感激に堪えない所であり、ひとり教授の光榮のみならず我等一同の光榮とする所であります。

幼兒の運動遊戯(二)

四

堀 七 藏

一

吾々人間の運動は實に多種多様であり、簡單なるもの複雑なるもの等いろいろである。しかし是等の運動を心理學的に分類すると、無意識的運動と意識的運動とに大別出来る。

無意識的運動は意志の支配なき運動で、刺戟と行動との間に精神活動がなく、刺戟に應じて直に器械的に運動するものである。例へば呼吸、心臟の運動や胃腸の消化、分泌・排泄等の如き運動は生得的に行はれ、全く器械的に行はれる自働運動である。従つて初めから比較的完全に行はれ、實際の役に立ち、人間の生活に必要な運動をなすもので、他の影響に對して著しい關係なしに行はれるものである。この種の運動は人間の生命維持上根本的に必要な運動であることはいふまでもない。

またくさめ、まばたき、せき、瞳孔の伸縮などの如き外界から來る刺戟に對しこの簡單に行ふ、所謂反射運動も亦全く意識の媒介を待たずに行はれるもので無意識運動である。人間が自己保存の必要上反射

的に行ふものであることいふまでもない。そして自働中樞が自働運動の中樞をなし、反射中樞が反射運動の中樞をなすのである。

自働中樞は身體内に於ける諸刺激によりて常に興奮状態にある中樞で、延髄中にある神経中樞が専ら之を司る。呼吸中樞でも心臓調節中樞でも亦血管中樞でも延髄に於て専ら行はれるので延髄は身體中他の如何なる器官よりも生命保持上肝要な所である。また延髄には反射中樞がある。これは諸種の刺激を受けるると直に興奮せられ、忽ち反射的に一定の運動を行はしめる神経中樞で、延髄には次の如き反射中樞がある。眼瞼を閉閉する反射運動の中樞がある。また嚥下運動は一部分隨意的に行はれ、一部分は不隨意的に行はれるものであるが、この不隨意的に行はれる運動は延髄にある嚥下中樞が刺激せられて起る反射運動である。また延髄には吸啜中樞・咀嚼中樞・嘔吐中樞・唾液分泌中樞・涙液分泌中樞・汗分泌中樞・嚏中樞・咳中樞等の反射運動の中樞がある。脊髄は神経纖維の通路として重要なものであるが、また呼吸・血行の自働中樞ともなり、脱糞・排尿・發汗・瞳孔散大等の反射運動の中樞となるものである。

以上の自働運動も反射運動も共に不隨意的に行はれ無意識的に行はれるものである。嬰兒のなす運動は専ら是等の無意識運動である。

意識的運動は神經中樞にて外來の刺戟を知覺し、また智情意の精神作用をなして各器官を指揮命令し、又中樞神經より派出する神經纖維より成れる末梢神經で各器官に中樞の命令を傳達し實行せしむる爲に起る運動である。所謂精神活動は機械的の反射運動では役に立たぬ場合に如何なる行動をなすべきかを決定し指導する參謀の役をなすものである。この故に刺戟と運動との間に精神活動が介在し、その管理によつて運動が行はれるもので、意識的の運動となるのである。

しかしこの意識的運動は更に衝動運動と意志運動とに分けられる。刺戟によつて感覺とか觀念とかの如き單一な精神作用が現はれ、その儘何等の故障なく運動が行はれる場合は衝動運動である。お菓子を見れば口に運び、きれいな花を見ると直に折取るが如き幼兒の行動は全く衝動運動である。お菓子を見て何氣なく口に入れる運動は可なり簡單ではあるが精神作用が加はつてゐる。しかしその精神作用はそのまゝ運動に現はれてゐる。この際他の思想が現はれて來るとさう簡單に行動となつて現はれぬ。「自分のお菓子でない」といふ思想が出て來ると、それでもかまはず食ふか若しくは遠慮して食はないか、二つの中一にさめねばならぬ。また「このお菓子は見かけによらずうまくない」といふ思想が現はれるとそれでも食ふか止めにするか決斷せねばならぬ。かくの如く二つ以上の思想があつて、その中で選擇が行はれる場合には意志運動といふのである。

而してこの意識的運動を行ふ神經中樞は専ら大腦にある。大腦には運動性皮質域と感覺性皮質域と綜

合中樞とがあつて運動・感覺・知覺の作用を司る外高尚なる精神作用、即ち智情意の作用をなし、殊に記憶・思考・推理・想像・判斷等の知的作用をなすものである。

二二

人間の運動は他の哺乳動物に於けると同様、筋肉の收縮によつて行はれるものである。骨と骨との間に附着せる筋肉の收縮により關節が支點となり一種の槓杆作用を呈して諸種の運動をなし得るものである。故に運動が充分行はれるが爲には骨骼及び筋肉がよく發達せねばならぬ。而して骨骼及び筋肉は諸種の運動によつて發達するものである。體操は勿論諸種の運動競技は直接間接を問はず軀幹肢の筋肉を發育させることを目的の一としてゐる。既に述べた如く運動が吾人の精神及び肉體に甚大なる影響効果を及ぼすものであるが、骨骼筋肉の發達には至大の關係がある。嬰兒のとき乳をすひ、呼吸をなし、あくびをし、泣き、笑ひ、足をばた／＼させ、握る、蹴る、引く、押すといふ運動から、横になり、起きあがり、すわり、前に匍出し、物につかまり、立ち上がり、歩み出す運動にすゝむ。而して初めは全く自働運動・反射運動のみで、何等の目的もなく意識もなく行はれる運動であるが、漸次感覺が發達し筋肉が發育して意識的運動が多くなり専ら衝動運動が行はれ、それが習慣となりて器械的無意識的な運動となる。しかし筋肉や感覺器官を適當に働かして快感をもたらす遊びが全體で、競技や所謂運動は全く

なり。

幼児は動作が拙であり一動作に費す時間が多いものである。それで靴をはくことでも着物をきることも拙であり、時間がかかる。その爲め兎角大人が用を足して幼児に動作せしめないのは幼児の筋肉を發達させる所以ではない。こんな複雑な動作まで發達せぬ時代に於ける運動動作でも同様で、幼児はよち／＼歩むことによつて歩行運動が發達するものであり、たつたりすわつたりして次第に立つやうになり、つかまつてよち／＼することを繰返し、屢々しりもちをつき、倒れたりすることによつて漸く歩むやうになるものである。

元來單純な運動でも身體全體の有する筋肉群の共同動作を要求するものである。すわるだけでも全身の主要なる筋肉が働かねばならず、歩むときなどは頭から足の先までの筋肉が共同的に動作するもので、決して單一な筋肉や又は少數の筋肉のみが獨り作用するものではない。かく簡單な運動に於ても意志がその運動に要する種々の筋肉をさがし出して是等の筋肉に調和して且つ統一的に作業に従事することを強ひて初めて運動の調節が行はれるものである。所が幼児は運動の調節が拙であるから、つまづいたり、ころんだり、平均がとれなかつたり、いろ／＼拙劣な動作をなすものである。それで運動の調節力の訓練は體操遊戲を通じて常に行はれねばならぬ。幼児に於てはいろ／＼の遊びや所謂仕組まれた遊戲によつて専ら運動の調節力を訓練せねばならぬ。

而して調節力の訓練は次の如くに行はれるものである。第一に度々の失敗の経験をなした後又は意志の度々の努力の後不必要な運動は段々と削除せられる。即ち度々反復せられた運動の記憶がかくの如き運動はかくの如くして遂行し得るものであると決定したとき、その決定が中心神経に固定するのである。第二にこの固定が十分出来上がったならば運動中樞は任意に刺戟の分量に適合した所の力を與へるものである。それで最善の方法は成功の反復と失敗の反復とを經て初めて學び得るものであるから、如何なる運動動作でも成るべく正確に實施させて、出来るだけ屢々反復練習させることが運動に習熟せしめる唯一の方法である。幼兒が度々努力した後漸く起立や歩行や駈歩や、また跳躍や片足跳や石けり繩飛などを習ふものである。それから漸次發育して小學校に入學する頃には意志の調節能力が既に習慣となつたところの各種の運動が出来るもので、かくの如き發育状態を基礎として體操や其他色々の運動を實施すべきものである。従つて幼稚園時代に於ては體操は勿論、所謂運動競技を課すべきものでもなく、また課することも出来ず、専ら幼兒の自由遊びに所謂工夫せられたる遊戯を加味すべきものである。

四

所謂遊戯よりもつと廣く幼兒時代の運動動作を凡て遊戯として先づその起源に關する諸説を紹介する。「兒童心理學講義」に於て上野陽一氏は遊びに關する諸學説を詳細に紹介してあるから、若し詳細な

る説明を必要とする人は同書を参考せられるがよい。茲には簡単に如何なる説があるかの大要を説明する。

遊戯の起源に關する第一の説は勢力過剩説とも稱すべきものである。獨逸の詩人シルレル及びイギリスの哲學者ハーバート・スペンサーの唱へた説で、従つてシルレル・スペンサーの説ともいはれる。吾人は自己が生存するに必要な勢力以外に餘分な力を有するものである。殊に長く休息などしてその勢力が過剩になればエネルギー發散の一方法として、こゝに遊戯といふ無目的の活動をなすものであるといふのが、この勢力過剩説の要點である。成程健康な嬰兒などはねてゐて勢力を消費することが少く、餘分な勢力が足をうごかし手をのばしたり縮たりするものである。

第二はグーツムーツの唱へた疲勞説、バトリックの弛緩説である。生物が活動すれば疲勞を來すものであるが、その疲勞があまり甚だしくない場合に於ては、その活動の方向を轉ずることによつて疲勞を恢復し得るものである。而して遊戯はこの疲勞を恢復する自然の要求に應じて生ずるものであるといふのがグーツムーツの唱へた疲勞説である。またバトリックの弛緩説は次のやうである。仕事は持續的注意制限聯合、集中、分析等の諸條件に加へて衝動の禁止が行はれるもので、大人でも是等の能力は一部分しか發達してゐないし、子供には殆ど發達してゐない。それで仕事では等の能力を働かせると疲勞を招くものである。しかし遊戯のために用ひられる勢力は最も抵抗の少い途を通つて現はれ、最も單純な

形で現はれて来る。それで近世の文明生活の緊張に苦んでゐる人類はその緊張状態から弛緩するために成るべく原始的な活動に耽る。これが遊戯である。仕事の緊張状態から弛緩と休養とを得んが爲め、原始的な活動に耽つて遊ぶもので、遊戯の本質は緊張状態から脱せしめる回復的衛生的の效果に存するのである。それでこの二説共に休養のため遊戯が行はれるものとなす休養説である。

それで勢力過剰説も休養説も共に生理學的立場から見た遊戯の起源であるが、更に生物學的立場より論ずる遊戯の起源に關する諸説がある。その第一はグロースの唱へた本能説である。グロースは動物の遊び及び人間の遊戯を十分研究した結果唱へた。遊戯は本能によつて生じ、本能は遊戯によつて發達し、以て將來の生活に於ける仕事の準備となり練習となるものであるといふのがその主眼である。従つてこのグロースの本能説はまた生活準備説とも能力練習説とも稱せられるのである。猫が玉をとつてじやれるのは成長して鼠を捕へる準備となり、女兒がままごと遊びをしたり、お人形遊びをなすのは大人になつたときの婦人生活の準備となる。また男兒がとんぼつりやせみとり、また魚捕りなどをなすのは大人となつたときの職業準備となる。かくいへば誠に面白い生物學的な遊戯の説明であるが、老人の遊戯などはこの説では誠に説明が困難となる。そこでスタンレーホール及びその門下の學者は同じく生物學的立場からグロースの説に反對して反復説を唱へたのである。即ち遊戯は將來の生活の爲に有益な事柄をなすものではなく、その種族の歴史を反復するものである。遊戯はその種族が原始時代から現今ま

でに進化して來た種々の行動を生れてから成長するまでの間に反復する行動である。吾人は遊びに於て大昔からの祖先の活動を反復しその一生をとりまとめて繰返し反復するものであるとなすのが反復説である。男兒が鳥獸魚を捕へることを好むは先祖からの遺傳でそれを反復するものであるし、女兒がままごと遊びをなしお人形遊びをなすのも先祖代々の生活に於てなし來つた所を反復するものであるといふのである。更にアツブレトン女史は前の二説と異つた生物學説を唱へた。遊びは身體の構造と關係するもので、生長しつゝある身體の需要を充すやうな活動が行はれる。嬰兒のときには頭と腕の筋肉が最も強く、同時に感覺器官と腦髓とが發達して來るから、遊戲もそれに相應したものが行はれる。更に強い筋肉が發達してもつと強い複雑な運動が出来るやうになり、腦が發達して知覺統覺が行はれるやうになると遊びは全身の活動を主とするやうになるものである。つまり遊びの形式は身體發達の形式と平行し、遊びの活動は身體各部の發達を促さんとする衝動あるが爲に存在するといふ説である。

尙ほマクヂウガルは遊戲の活動の本質は競争的の動機に存するといふ競争衝動説を公になしたのである。他人と競争してそれに打勝たんとする動機は凡ての競技に於て働くことは眞理であるが、凡ての遊戲に於て果してこの競争が動機をなすものか否か甚だ疑はしいものがある。

要するに吾人人類の遊びに關して諸種の學説があり一長一短はあるが幼兒の生活が悉く遊戲であり幼兒は一刻も遊びなしに生活し得るものでないことを明白に考へねばならぬ。

兒童と教科過程 (三)

デユキ一原 著
大塚喜一 譯

若し兒童研究が一般人の心に、或年齢の子供は彼の諸種の目的や興味を其儘の姿で教養さるべく如實に用意してゐるといふ印象を残すならば禍である。興味は實際には、可能なる經驗に向へる態度に過ぎず、それは達成されたるものではない。其價值（効用）はそれが提供する挺子の用に存し、それが表す成就に存しない。或る年齢に於て現はれる現象を何かそれだけで説明のつくもの或はそれだけで盡さるものと見るのは、必ず耽溺と汚損とを來すものである。子供に於ても大人に於ても、或る能力をそれが意識の中にて現在興へられたる段階のものとしてのみ取扱ふ時には、其能力に耽溺する事となる。其能力の眞の意味は更に高き段階へ向つてそれが導出する前進に存する。換言すれば、其能力は（他の）或るものと共に事を爲すのである。此意を解せずして、現在の段階に於ける興味にのみ訴ふる事は、刺戟を意味する、即ち何等之を一定の達成に向つて指導する事なくして絶えず之をかき廻す様な力を働かしむる事を意味する。あらゆる實際的目的に對して、いつも活動の着手と創造とを爲すのみにて達成する事無きは、或る更に完美なる思想や意志を想像せる興味に適合（一致）せざる點に於て、創造を常に抑

壓する事と同様に悪である。これは恰も、子供が永久に味を試みただけで決して食せない様なものである、即ち感情的に彼の上顎を絶えずくすぐるだけで、食物を消化して之を働く力に轉化せしむる事に依てのみ來る有機的満足を得ない様なものである。

斯かる見解に反し、科學と歴史と藝術との主題は吾人に眞の子供を啓示するに役立つ。我々が彼の諸傾向や諸行爲の意味を知り得るのは、只我々が是等を將來或る果實を結ぶべき萌え出でつゝある種子として又は開かんとする蕾として取扱ふ場合に限る。視覺に映ずる全世界と雖も、光と形とに對する子供の本能の意義に就ての問題への解答としては猶小なる感がある。物理學の全科學は、子供の注意を惹ける或る因果的變化の説明に就ての彼の或る單純なる要求の中に含まるゝ所のものを我々に適當に解説する點に於て、決して多過ぎるといふ事はない。ラファエルやコロの藝術も子供が描き且塗つてゐる時に働きつゝある諸衝動を我等に價值付けしめ得る點に於て餘りに偉大であるといふ事はない。

解説に於ける主題の用途に就てはこれにて止めやう。指導に於ける主題の用途は、同様の思想の擴張に過ぎない。事實を説明するとは、之を其生命の動きに於て見る事であり、成長に對してそれが有する關係に於て見る事である。しかも、正常なる成長の一部分として之を見る事は、是を導くべき基礎を確保する所以である。指導とは外的に課する事ではない。指導とは生活過程をしてそれ自身の最も適當なる成熟を自由ならしむる事である。子供の現在の經驗が大人の成熟せる經驗からかけ離れてゐるの故を

以て之を無視する考と、子供の素朴なる氣隨や所爲を感傷的に理想化する考との兩極端は、茲に稍趣を異にして再び考察する事が出来る。子供に外から強制する事と、彼を全然一人にて放任する事とに代るべき他の道を見出し得ない者がある。彼等は他に道を認めないから二つの中何れかを選び、然るに此兩者は共に同じ基本的誤謬に陥つてゐる。即ち、發達はそれ自らの法則を有する一定の過程であり、それは適當にして正常なる諸條件が提供されたる場合にのみ完成されるのであるといふ事を、兩者共に見落してゐる。計算し測定しリヅミカルな系列に於て物を並べる等の際に於ける子供の現在の粗野なる衝動を眞に説明する事は、數學上の學識を含む——即ち人類の歴史に於て丁度斯様な粗野なる始源から成長して來た所の數學的諸式及諸關係の智識を含むのである。是等の二つの間に入り來るべき發展の全歴史を見るには、只子供は丁度今此處で如何なる段階に居るを要するか、又彼の盲目的衝動を以て明瞭と力を獲得せんが爲には如何に之を用ふるを要するかを見ればよい。

更に、若し「舊教育」が子供の現在の經驗に内在せる動的性質即ち發達しつつある力を無視しそれが爲に指導や統制は子供を與へられたる道に押付け其處を歩む様に強制する事だと考ふる傾向がありとすれば、之に對して「新教育」は發達の觀念を全然あまりに形式的な空虚な方法に求むるの危險がある。即ち子供はこれこれの事項や眞理を彼自身の心から「發達」させるものと豫期されてゐる、そして思考を出發せしめ指導せらるゝに要する環境條件を提供せられる事が無いのである。無よりは何物も發達せ

しめられず、教育を受けざる粗野なる心よりは粗野の外何物も發達せしめられない。而して斯の如き歸結は、我々が子供の今達成せる自己を終極と見做し其處より彼自身の力にて性質行爲等の諸眞理を引出す様に誘導せんとする時に確に到來するのである。子供をして單に彼自身の心のみから宇宙を展開せしめむと豫期する事は、或る哲學者が斯く企つる如く、同様に無効である。

(註入、今、新舊兩説の眞目標を綜合して述べれば)

發達とは心の外なる何物かを得る事を意味しない。そは眞に要求さるゝ所に向つて經驗を内部から發達させる意味である。而して此事は、作用の價值ありとして選擇されたる諸能力や諸興味を可能ならしむる所の教育的環境が提供さるゝに非れば不可能である。此の諸能力や諸興味が如何に作用するかは、是等を取圍む諸刺戟と是等がそれに依て練磨される諸材料とに殆ど全く依るものである。指導の問題は斯くして、新經驗の獲得に當つて働くを要する諸本能や諸衝動に對して適當なる諸刺戟を選擇する事の問題となる。此際、如何なる新經驗が望まじきか又それには如何なる刺戟が必要なるかは、目標とせる發達の或る理解がなければ即ち子供に向つて開かれたる可能なる道程を啓示するものとして誘出せられたる大人の智識がなければ、之を告げる事が出来ない。

經驗の論理的な方面と心理學的な方面とを互に區別し又相關係せしむる事は有益であらう——前者は主題それ自身に就て後者は主題と子供との關係に就ての立場である。經驗の心理學的陳述はその實際の

成長に従つてゐる、それは歴史的である。それは事實上起れる一步々々を記述する、不確實にして迂回せるものも能率高く成功せるものもすべて平等に之を取入れる。然るに論理的立場は、發達は完成に向つて或る實際的段階に迄到達したと想定する。そして過程を見ずして結果を考へる。この立場に於ては蒐集と配分とが行はれ斯くして、到達せる結果を其最初の出發點より進行して來た實際の過程から分離して考ふ。吾人は論理的と心理學的との差異を、或る探險家が能ふ限りの方法を以て新地方を踏査したる記録と、其地方が餘す所無く探索せられた後に構成さるゝ仕上げの地圖との差異に比較する事が出来る。此二者は互に相依存してゐる。探險家が多少の偶發的な迷路に入れる道に足跡を印するに非れば、完全にして参照の用をなす海圖を作るに利用するを得べき事項が見出されない。しかも斯かる探險旅行は、他人が従事せる同種の探索に依て比較され檢正さるゝに非れば、換言すれば、地理的新事項を學び川を渡り山に登り等した事が特殊なる旅行家の單なる出來事としてではなく、個人的な探險家の生活から全く離れて既に知られてゐる他の同種の事項との關係に於て觀察さるゝに非れば、何人も之より利益を得る事は出來ない。個人的な諸經驗を其最初の發見の時と處とに於ける諸狀況に無關係に互に結合せしめ且秩序付ける事に依て地圖が出來上るのである。

經驗を斯く形式的比喩を以て述べる事は如何に役立つものか。地圖の用は那邊にありや？

左様、地圖は或る個人的經驗を比喩的に代表するものではない。地圖は或る實際の旅行の代りを爲す

ものではない。學習や研究の一科學又は一分科の論理的に形作られたる教材は、個人的經驗の所有せるものと置換へる事は出來ぬ。落體の數學的公式は、我々が平常落下物に就て個人的直接的に經驗してゐる通りに直に成立するものではない。

註、落體の公式 $s = v_0 t + \frac{1}{2} g t^2$

。 最初物體の重心のありし位置（原點よりの距離）

。 最初物體が直下方に有せし速度

。 地球の引力の加速度（毎秒九八〇秒²）

。 引力の作用せし時間

。 其時間の終に於ける物體の重心の位置

此公式は引力以外に其物體に何等の力が働かない場合にのみ當嵌るものであるが、實際には空氣の抵抗其他僅かなりとも無限に種々の影響が及ぼされるから多少の差異を生ずる。

しかし、地圖は今迄の諸經驗の摘要であり整理され秩序立てられたる見取圖であつて、未來の經驗への指導者として役立つものである。即ちそれは方向を與へ、統制を容易にし、無用の迷路を豫防し所期の結果に最も速に最も確實に導く道を示す事に依て努力を經濟的ならしむ。地圖のちかけて、すべての

新旅行は彼自身の旅行に於て他の多くの探險家達の成果の利益を受け、しかも最初の開拓の中に含まるゝ精力の勞費と時間の損失とを蒙らない。若し此地圖に依て表はされ傳へらるる先人の努力なかりせば、彼も亦同様なる迷路を繰返さざるを得ないであらう。此比喻に依て知らるゝ如く、我等が一科學又は學問と稱する所のものは過去の經驗の總決算を將來に對して最も利用され得る様に提供せるものである。それは直ちに興味の對象物となり得るものゝ現價計上を表示する。學問はあらゆる方法に於て心の働きを經濟的ならしむ。諸事項は或る共通原理の下に集められてゐて其最初の發見に於ける偶發的出來事に關係付けられる事はないから記憶の負擔は減ぜれる。觀察は便にせられ、我等は何を求むべきか且何處に求むべきかを知る。其有様は恰もよく整頓されたる研究室内にて所要の論文を求むるが如きである。思考が自然に進行して偶發的機會に依て動搖しない様に或る一般的な道筋が引かれてあるから、理路整然と指導せられる。

されば、經驗の論理的表出に就ては終極する所が無い。其價値はそれ自らの中には含まれて居ず、其意義は其立場・外觀・方法に於て見出される。經驗の或程度の論理的表出は、それよりも更に偶然の試験的の廻り道をなせる其過去に於ける諸經驗と、それよりも更に統制され秩序立てられたる其將來に於ける諸經驗との間に入り來るものである。それは過去の經驗に對しそれが最も善用され意義を有し且未來の經驗を多く産み出す様な脈絡ある形を與へる。それが導き出す所の抽象作用や一般化や分類等はすべ

て將來に關する意義を有するものである。

以上述べ來りたる歸結はそれ故に、成長の過程に反するものではない。論理的立場は心理學的立場に對して反抗するものではない。寧ろ、探究され整理されたる結果は成長の過程に於ける批判的地位を占むるものである。それは一つの回歸點を印する。それは吾人が如何に過去の勞力を利用して以て將來の努力を統制すべきかを示すものである。最廣義に於ては、論理的立場はそれ自ら心理學的である。それは經驗の發達に於ける一點としての意味を有し、その辯明は將來の成長を保證する點に其機能を有する。

それ故に、學課及學習の諸分科に於ける主題を經驗の中に再び就かしむる必要がある。主題はそれが初に抽象されたる經驗へと復歸せしめねばならぬ。それは心理學的見地より見るを要する、即ち主題がその起源と意義とを有する所の直接的な個性的な經驗を爲す事の中にそれが轉歸され翻譯されねばならぬ。

總ての學課又は主題は斯くして二様の局面を有す、一は科學者として科學者に對する局面であり、他は教師に對する局面である。是等の二局面は決して反對せるものでも矛盾せるものでもないが、又直に同一でもない。科學者としては、主題は、新問題を見定め新研究に着手し斯くして是等を檢證せられたる成果に持來すに當つて用ひらるべき真理の所與體を表示する。彼には科學の主題は獨立せるものである。

彼は其各部分を互に參照し、新事項を之と聯結する。彼は科學者としては其特殊的領域外に出づるの用はない、若し彼が斯く爲せばそは只同じ一般的種類の事項を更に多く得んが爲である。然るに教師の問題は之とは趣を異にする。教師として彼は彼が教ふる科學に新事項を附加する事に關與しない。即ち新假説を提出し又は之を檢證する等の事はない。彼は科學の主題に關しては經驗の發展に於ける或る段階と形相とを代表するものとして關與する。彼の問題は生命的な人格的な經驗（體驗）を爲さしむる事である。それ故に、教師として彼の關與する所は、主題が經驗の一部となるが如き方法である。それが爲には、(1)子供の現在に於て主題に關係して有用なるものがあるか、(2)是等の諸要素が如何にして用ひらるべきか(3)主題に就ての彼自身の智識が一方子供に要求と所爲とを解説するを如何に助くるか、(4)更に他方子供が成長が適當に指導されんが爲に子供が置かるゝを要する環境（媒質）を此智識が如何に決定するか等の諸問題を解決せねばならぬ。彼は全體的にして且成長しつつある經驗内の相關的要素としての主題に關與してゐる。かく主題を觀る事は之を心理學的に見る事である。（つづく）

巴里市公立産院、托兒所、小兒病院、 感化院

宇佐美 敬

一、産院

巴里市公立の産院は同市衛生局に屬す。現在百五十名收容してゐるといふ、此種は巴里市に一つであるが他に小規模のもの同市内に何百といふ多數ありて、貧しき産婦の爲めに備えられてあるといふ。設備完全、決して立派ではないが掃除が行きとどき清潔である。患者の寢具等も舊くはあるが洗濯がしてある。看護婦たちがまた非常に質素で細い縞の木綿の着ものに白のエプロンをつけて頭に白布をかけてゐるがそれ等の白いきれに、細

かくしきしが當つてゐるのを見て感心する。

通常産室は廣大で室の兩側に寢臺が十二臺づゝ並び、中央を小さい車で食事を運びまた其處に種々の必要品が並べてある。各寢臺のすその方に赤ちやんの小さい寢臺があつて可愛い、小さい人がすや／＼とねてゐる。こういう室が四つ、その他お産が後れて難産の人の室が十人一室で二三室ある。手術をして子供を産ませる人の部屋が一人室で可なり澤山ある。難産の爲め貧血を起した人、また神經の興奮した人、些精神に異狀を來した人の部屋はずつとはなれた別室になり、静かなやゝ

薄暗い室があてゝある。嬰兒の營養不良の者は母親の部屋から離して濕度の調節を嚴重にした別室にすつかり布で周圍を包んだ籠の中にいれてある。これで育つかと思ふやうな赤ちやんが十人位居た、西洋の婦人はお産の時泣くといふ話を聞いて居つたが、實際手術臺にのつておいゝと泣いてゐる側を通つていひやうのない氣の毒さを感じた。

此處へは出産前二週間にうけいれられ、産後二週間で退院といふ事である。手續としては別に産婦の診察所が院内にあつて其處は午前の九時から十二時まで午後は二時から六時まで診察があるのぞその結果誰でも入院が出来る。毎日百五十人位来る少なくとも百二十人は来るといふ。尙産後三ヶ月間母親と共に乳兒を保護し預る場所が別にあるといふことである。

かく産兒産婦の保護の行き届いてゐることはさ

すがにフランスであると思つた。尙この國は非常に難産の婦人が多いといふ事を看護婦が語つてゐたが母體の無理といふこともあるが流行の爲めに婦人が種々非衛生的の服裝をするといふことも原因するであらうといふことである。

二、托兒所

これは市の救済局に屬する私の見たものは可なり広い場所で建物も廣大約六十年前の建築といふことであるが尙増建しつゝあつた。小兒診察所附屬し、嬰兒と、五六歳より十二三歳までの二個所に分れて診察所あり、此處には子供の病氣に限らず健康診斷的に診察をうけに來る母親もあり、診察は午前中にて外科・内科・耳鼻科・眼科、と曜日がわかれてゐる、母親は診察を受けたい日を選んで子供をつれて來る、一般病人の外に傳染病の懸念あるものは直ちに別室にて驗査し、いよゝゝ傳

染病と決定すると直ちに傳染病院に送る。入院を要するものはその手續きをすぐとらせ、小兒病院にうけいれる、診察をうけたものは一々診斷書を貰ひ次に來るまでの容態を記して必ず持參する事になつてゐるといふ。

托兒所の方は此處に預る分は母親が病氣中のものが主で捨て子もゐる、預る年齢は嬰兒から十五六歳まで、十五歳までとしたのはそれ以上の子供ならば母親が留守でも何かの働きが出來また留守居も出來るといふわけである。人手のかゝらぬ

ほどのもの満六歳から十五歳のもの一つ棟に、その食堂、診察所、勉強所、遊戯室、寢室を見る。

男女は別棟で、何れも光線のよきはいるきれいな寢室にきれいなベットが兵營の様にずらつと並んでゐる。十歳以上の女兒が掃除を手傳つてゐるのを見た、皆粗末ではあるがさつぱりした木綿の綿の着物を着てゐる、勉強室には日本の小學校の

教室のやうに机が並び、地圖がかけてある、學課を先きに進める程度にはないが復習をさせる事になつてゐる由、六七歳位の子供たちが遊んでゐた。食堂もきれい、食器は皆アルミニウムである。

外の運動場も廣々と、美しい花壇があり、涼しそな樹陰にベンチが置いてある、其處に三人ばかりの女兒が腰かけて話をしてゐたが、その中の一人は捨て子だといつて案内の婦人が話してくれた。現在此處に約三百人づゝの男女兒を預つてゐるといふ事である。

嬰兒の分を見る、生後(一週間以内)直ちに預つたものもゐる、一ヶ月、半ヶ年、一年、皆わけて世話をしてゐる、一室に五六十の赤ん坊が可愛いベットにねてゐる、丁度食事の時間だといふとであつたがあちらでもこちらでも泣いてゐる、皆あなかにすいたのであらう。母親に代つてかうして育てるフランスの婦人たち、何れも親切をう

そして健康そう、可愛くてたまらぬといふ様子で赤ちゃんをだいてゐる人もある。お乳は人工乳以外に乳母も雇つてある、六七人ゐた。乳母は別室に我子と一緒にゐる。一日に數回看護婦の手によつてお乳を搾る、それは生後一ヶ月以内のものは是非、その他發育不良のものに與へる。營養不良のものまた特に光線療法をうける必要のあるものだけ硝子張の明るい室に十數人居つた、尙他にやゝ虚弱の幼児の爲めに、一室三人位の特別室がありそれが八室ある。

看護婦の勤務時間を聞いてみる。

午前六時——午後三時半（第一回の勤務者）
午後二時半——午後十一時半（第二回の勤務者）
午後十時半——午前七時（第三回の勤務者）
交代時の一時間の重なりは引きつぎと同時に二人で互に受持乳兒の状態につきて研究し相談する爲めといふことである、寸のすきのないやうに働い

てゐる看護婦たち、質素なさつぱりとした服装、快活に愉快そうに些の疲勞の色を見せてゐないところが心地よい限りであつた、この中に捨子も五十人位ゐるといふことである、全體で百五六十人預つてゐるといふ。

捨て子に就て聞くとところを記す、若氣の至りの過失から子供を産む、それを此處につれて來る、するとすぐそれを預る、預るといふより其時を期して全然母子の縁を絶ち再び我子として省ることを許さぬ、此處では三歳まで育て四歳から田舎に里子に預ける、適當の里子に出せぬものは十五歳まで他の預り子と同様に此處で暮させる、その間に読み書きを教へる、里子になつたものは第二の親の許に二十一歳まで育てられ、それから自由になる。其間縣は適當の補助を與へまた時時役人が廻つてゆきその子の状態を見る、第二の親の許を去り自分の産みの親をたづね求めるものもあらう

といふ、餘りにも悲惨な實話である。尙院長の語るに、此院は縣の費用で維持されてゐるが此種のものゝは國家的事業とするのが本統であらうと思ふといつて居られた。自然裕かな縣では數も多くの設備もゆきとよく、佛國では巴里が一番數が多い、此處は收容限度が四百人で現在その位居る、巴里の預り子が現在三萬人、佛國全體で十五萬人、その中捨て子が十年前は五千人(毎年)ありしが現在は千七百人に減じてゐる、院長がこの最も悲しむべき運命のもとにあかるゝ捨て子を少しでも減じてゆきたいと種々考慮し現在はいふ方法をとつてゐるといつて語られたのは、母親が我子をつれ

最も悲しい訴えをして來る時、まづその母子を郊外の静かな所に衣食を與へて住ませ、その間相當の仕事と與へていとし我子を育てさせてゐる中に二ヶ月位の間に母親の愛が自然に育まれて、我子とわかれ住むに忍びずなり、その子を育てる爲め

に、眞面目な生活にはいるといふ事になる、その結果の減少なりといふ。母の家」といつて常に五十人から六十人の母親が其處にあるといふ。公費を以てかくばかり行き届いた子供の保護を中心とした事業のなされてゐるのはさすがにフランスだと思つた。英國のダアクター・バーナードのウィレッヂハウスを始め幾多の此種の仕事が個人の仕事或は慈善團體の仕事としてなされてゐるのと思ひ合せて種々考へさせられる點が多い。

三、小兒病院

澤山ある中の最も大きいのを一つ見る。實に廣大な建物。毎日午前二時間午後二時間の診察時間に四百人から五百人の子供が診察をうけに來、入院患者が六百人以上あるといふ、此處は至つて官僚式で許可證を持つていつたのに、手が少ないからといつて快く案内してくれそうもなかつたの

で、普通患者として入院の幼児のところだけを見
せて貰ふ。受付子はそんな風であつたが、次から
次と案内してくれる人が代る。その人たちはやは
りフランスの氣輕さと親切をあらはしてくれて愉
快に一巡みせて貰ふ。此處には若いお醫者さんが
研究に來て居られ、一週何回か各専門の大家先生
が診察され、講演があるといふ。小兒の病院の事
ゆゑ小兒特有の傳染病が多く、それ等が全然別棟
にわかれ實に／＼廣いものである。

四、感化院

巴里市の郊外可なり遠方にある、キツスイの巴
里つ子、地理に明るい御自慢の運轉士も、今日は
ほと／＼閉口したほどむづかしい場所にある、七
十丁歩からの廣大の地積を占め森林を境のセーヌ
河までつゞくところ。やつとの事で門までたどり
つく、其處に數人の院見らしい元氣そうな男兒が

男の先生と一緒に土手を築いてゐる、先生が私を
見て「汽車で來らるゝと思はれ院長が迎への人を
停車場に出された、車では大變でしたね」とここ
やかにその男兒の一人を案内につけてくれ、院長
の居らるゝ建物の方に導く、前回に記したが、佛
國はかうした種の參觀は中々手續きが面倒であ
る。最初にそれ／＼の役所で許可證をうけ、更に
その觀やうとする局の許可をうける、ことにこの
感化院は、最初市の學務課にゆき、更に司法省に
ゆけとの事であり、それは間違て内務省だといふ、
するとそれが日本の少年刑務所のやうなものを紹
介される、私は是非見たいと思ふこの感化院參觀
に到達する爲めに、可なりの道程のあつたことを
今これを書きながら思ひ起す。

院長に喜び迎へられてすつかり用意してあかれ
た種々の刷もの、また特にタイプライターで打た
せたものを下さる、此處にあづかる子供の種類は

捨て子の中の性質のあしきもの、家庭からの直接の申込みと學校からのとであるが勿論皆普通兒ではない。もとより輕重はあつても精神的缺陷のあるものばかりであり、預つてからは餘り家庭と交渉せぬやうにし、家にかへしてその日の中に歸院するやうにしてあるといふ。その鞏正法はたゞ環境の整理だけのやうに思はれる。院長はいつて居られた、常に溫情を以て育て、彼等をして自ら非を悟らせるやうにし、更に刑罰をほどこす事はないと、食事など十分に與へる、野菜は皆畑から(勿論院兒が指導の先生と一緒に栽培するもの、大仕かけの養鶏もして卵を澤山得てゐる)ケッチンにいつて見ると大きな牛肉が鈎にぶら下つてゐた。これ等の肉は市の救濟局から廉價に送つて來るといふ。幾棟かに建ものがわかれて居り、階下は、作業部屋になつて居る、木工、金工、その他の細工部屋、二階が寢室になつてゐるが、これを

見たとき、やはり不良兒の特別な看視のなされてゐる事を思つた、一人一人區ぎつた箱の様な小さい部屋になつてゐて二三十人に一人の監督がつき、各室を一せいにロックするやうになつてゐる、夜中に一人が何か病氣にでもなつて先生に用のある時はベルをならす、すると先生がその部屋だけをあけて下さる。各部屋がきれいに片づき掃除がしてある。炊事場につゞいて食堂があるが實に廣くて心地よきもの、洗濯部屋、衣服の裁縫修繕をする部屋、此處に十人位の婦人がゐて電氣仕掛で大がりの洗濯し、靴下のつくるひから、衣服の裁ち縫ひをしてゐる。シャツは一週一回とりかへることになつてゐるといふ。ストックがあつて其處には實に整然と新調の洋服、洗濯した靴下、ハンケチ、タオルのやうな細いもの、それ等が新しいものと區別して心地よく整頓してゐる、子供は七歳から十三歳までは普通教育を施しその上は他

の學校に送るものもありまた十七八歳まで種々の仕事を學ぶ（前述の教室で）それからそれ／＼の働きに出る。ガードナーになるものもあるといふ。廣い庭園で樂しそくに草花の手いれをしてゐるもの、芝を蒔つてめるものを見た、現在三百人の男兒を預つてゐるといふ、女兒の爲めにはかうした公立のものはなく私立が二三あるといふ事である、決して監視の眼を置かぬがまだ一人も逃げたものがないといふ。

學校教育をしてゐる教場に案内されたが一教室四十人位日本の小學校と同様、學校の成績は普通小學校に更に劣らぬといふ事である。その時であつた、ふと廊下の向ふからにこ／＼しながら可愛い十歳位の男兒が来る、上品な顔の表情の何處にも不良のかけも見えぬ、しかし服装は他の院兒と同じである。私は院長にあの子も院兒かとたづねたときあれは私の長男だと答へられた。あゝこ

れだなと心の底から大きく首肯いた事であつた。この眞剣さと強き自信とがあつて初めて出来る事業であらう、たゞねるときと食事の時、或一定の運動時間だけ家に歸らせる」と院長は語られた。

宗教教育として毎日曜キャンリツクとプロテスタントの牧師を交互に聘して説教を聞かせる事にしてあるといふ、普通教室、仕事部屋の他にきれいな休養室があり、病室もある、理髮室もある、靜かに一人あることを要するものゝ爲めの特別のきれいな部屋もある、しかしこの病室のふさがる時はめつたにない、と院長がいつて居られたが、こんな空氣のよい所に規則的の生活をし適度の勞働をしてゐては病氣にもめつたになるまいと思はれた。此處からそれ／＼の仕事に雇はれたものゝ成績は非常によく、最近全く雇主からのことがない、若し何等かの故障で解雇されたものゝ爲めにはやゝ離れた別棟の寄宿舎がある、ごく僅少の費

用で止宿が出来る、つまり一生涯たよることの出来る組織になつてゐる、先生、事務員、全部構内に住んでゐる。構内といつても何しろ廣いもの故、はるかにポツ／＼と赤い屋根の格好のいゝ家が遠くに見える、果樹園、栽園、と案内されながらちらほらと働いてゐる小さいかげを見て、三百餘のかつた。

小さい友の上に祝福を祈つたことである。院長の親切を謝し辭そうとするとき、うで一ぱいに美しい花や、珍らしい苗を二人の男兒が嬉しそうにかゝへて私の車の中にいれてくれた、その時は、メンシイのあいさつがのどにまつて出なかつた。

宇式かん女史の光榮

倉橋惣三

天皇陛下 先般静岡縣下へ民情御視察の爲行幸遊ばされた際、同縣廳に於て、特に縣下各方面の功勞者に對し拜謁を賜はつた。その中に、宇式かん女史を加へられたことは、同氏の光榮であると共に、幼稚園教育界の一大慶事といはざるを得ない。其の日は五月二十八日であつた。教育功勞者として特別拜謁を賜はつたもの五名、宇式女史は其少數の光榮者の一人であつたのである。他の諸氏も、いづれも久しく教育界の人として、貴重なる功勞者の方々であるが、わが宇式女史は、終始幼

幼稚園教育界の人として、その功勞をお認め戴いたのである。女史は久しく静岡市立静岡幼稚園長であつたが、後、その職を現任の浦野みち氏に譲り、自らは私立櫻花幼稚園を設立して、愛媛縣林成子氏と共に、その事業に當つてゐられる。實に、静岡縣内に於ける教育界の古老たるのみならず、我國幼稚園教育の大先輩である。殊に女史の圓熟せる人格は、縣内保育界は勿論、静岡市内一般から尊敬を受けてゐられる程である。此の度の光榮も誠にその所以あること、言はざるを得ない。

尙ほ、此のことに關して、われ等の特に感ずるところは、女史を通して與へられた幼稚園教育の光榮である。幼稚園教育の人として、特に斯くの如き光榮に浴せるは多分宇式女史を以て初めとするのであり、幼稚園教育界の偉大なる事實である。光榮に對する感激も當然われ等の頌み受くる處である。余は、女史との久しき懇親の上から、之れを喜ぶと共に、幼稚園界の一人として、更に、廣き意味の欣慶を禁じ得ないのである。

女史正に七十歳、尙赫灼として、温容豊なるものがあるが、尙一層自愛加餐、愛の徳を以て我國幼稚園界の後進を鼓舞せられんことを祈つてやまない。

歐米に於ける學校給食の現狀

—東京醫事新誌第二六四三號より轉載—

榮養研究所技師 原

徹 一

一、緒 言

一九二六年國際聯盟醫務部に於て交換教授制と共に交換研究員の制が新設されるに及び、余は榮養研究所長醫學博士佐伯矩先生の御推薦を辱うして第一回の研究員として歐米に渡航見學するの機を得た。而して此の機會に日本榮養協會は、歐米に於ける學校給食狀態の視察を余に囑託せられたのであつた。斯くて余は、本務としての研究題目『光線と榮養の關係』を研究の余暇、力めて諸國の學校給食狀態の實狀調査に専念した。學校給食につきては我が國は、榮養學の世界的權威佐伯先生

を會長とする日本榮養協會に依つて夙に科學的方法を以て試みられ、其の成績の顯著なるものあるは既に世人の知る處である。之を外國の實例と比較考察するに其の科學的基礎に立脚せる點に於て或は其の優秀なる成績に於て到底彼等の追從を許さぬのである。

日本榮養協會の事業が實際に於て他國に優越せる模範的のものなるのみならず、又這般は、實に最初の國際聯盟交換教授として或はロツクフェル財團賓客として佐伯先生は、歐洲南北米に亘り榮養學の講演を行ひ或は榮養問題解決計劃に指導を與へられ、榮養學の創始者として多大の賞讃と

感謝を受けられたのであつた。之即ち我が榮養學の世界的進出である。

斯様に、學術的にも實際上にも榮養學に於て、我等は外國に對し一日の長を誇り得るの榮譽を有するに拘らず、殊に佛國では此日本式給食を佛蘭西にも移植したいと稱せられ、新興チエツコ、スロヴァキア國當局は日本榮養協會のフィルムに依つて此運動を開始せむとの決意を示し、又我國に來朝する歐米知名の人士若くは僅に數時間を有するに過ぎざる寄港船乘客にして、日本榮養協會の給食實況の參觀を希望するものが少なからざる有様であるに拘らず、一旦全國的に之を観察する時は我國學校給食の實狀は日本榮養協會の給食を除きては、岐阜縣の十三校を最多とし其の他十數縣に於て極めて少數の學校でそれが實行されてゐるに過ぎない。政府當局も亦本問題に關して未だに何等積極的施設を行ふに至らざる現況にあるのは、

洵に遺憾に堪へない所である。

國民の體格體質向上には榮養改善を必須とし、榮養改善には何んと言つても學校給食による程、効顯あり又容易な方法はない。國內全般に亘り學校給食の實施が普及せられむ事を切望する次第である。

元來歐米にては、學校給食は最初佛國に於て創始せられ、英米に於て發達したものである。而してそれが同じく獨逸にも入り實行せらるゝに及び、却つて獨逸は先進國を凌ぎ、現今では非常なる熱心を以て其の實施に力めて居るのである。然し茲に看過す可からざる點は、之等諸國の爲すところは其の多くは救濟的のものであつて學校給食の本旨に副つたものとは言へないことである。

ゼネバに於ける國際聯盟總會に於て我が佐伯先生は其講演中に、學校給食は慈善事業でない。救濟事業でもない。實に健康問題である。貧富の差

別なく均霑せしむるを要す」と喝破力説せられ、各國代表委員も亦之に對して同感の意を表明した。そして先生の講演によりて、我が日本榮養協會の學校給食は科學的といふのみならず、社會學的或は道德的にも歐米諸國を先導するに足るものである事を知つてこれを嘆賞せざるはなかつた。

斯様にして、學校給食に就いては學問的にも實行方法にも、我國は今や其の範を遠く歐米に求むるを要せず、庶幾くば日本榮養協會の事業に鑑み、出來得る限り速に數量的にこれを擴大すれば足るといふ唯それ丈の問題が残されて居るのである。

以下歐米に於ける學校給食の現状を叙述し日本榮養協會の囑託に對する責を果すと共に此の問題に對し敢て識者の注意を喚起して已まない次第である。

二、英國に於ける學校給食

1、概 説

A、給食法規 食物に關しては英國は古より色々議論もし宣傳もする。然し實行が之れに伴はないのを常とする。學校給食に關しても同様である。兒童に適當なる食物を與へる事は兒童の體格と體質を改善する上に最も大切なる事として當局は其の實行に努めて居る。然し色々の理由の下に其の實際は未だ満足すべき状態でない。

元來英國に於ける給食は歐洲の各國に見る如く最初は貧民兒童の救済を主なる目的としたのであつた。

一八七〇年義務教育法が制定せられ、其の制度をして意義あらしめるため、盛に之を勵行した。其の結果裏町の貧民兒童が多數公立學校に集つた。夫れ等の子供を見ると何れも甚だしい榮養不

良のものばかりで、之れでは到底義務年限を無事に通過せしむる事は困難であると考へられた。それ故之れを救済する目的で一時的の給食團體が出来て、必要と認める貧兒に給食を開始した。之れが給食の最初のものである。その後段々給食が増加して、一九〇五年には英國の都市一四六中に三五五の單獨なる給食團體が出来るに至つた。

然し其の實際に於ける事業は極めて不完全なもので、給與する食物の性質には何等の考慮を拂ふ事無く、又數種の食物から兒童の選擇にまかせて之を攝らしめた。然るにそんな不満足なる食物であるに拘はらず、その給與は肉體のみならず學校作業に非常なる進歩を示し、遂に學校給食事業は効果多きものとして一般人の認めるところとなつた。それ故人民は學校給食は國家的に必要な事を認め、之が經營を國家に要求するに至つた。時恰も二十世紀の初期であつてボーア(Boerwar)戰

争に際した。軍籍に身を置くを誇りとする彼等英國人は、公募により多數事務所に押し掛けた。然るに醫官が之を検査して見ると、五人の内三人までは肉體缺陷があつて到底軍人として採用する事が出来なかつた。

此の驚くべき事實は國民に一大衝動を與へた政府當局は此の原因に關しスコットランド王室身體鍛鍊委員會並に保健委員會に其の原因につき諮問した。兩會の意見は、吾人種が斯く虚弱に陥りしが如き實情を示すに至りたるは小學校時代に於ける榮養不良が原因して居ると云ふ事に一致した。小學校で教育を義務的に強制するならば、必ず其の效果あらしめるため兒童が教育を受けるに適當なる肉體を所有して居るやをも注意せねばならぬ。之等の意見が建議案となつて國會に提出され、盛に議論された結果、誰も學校給食の必要を認め、而もそれは個人又は團體などの力のみにて

は到底なし得ざるものとなし、國家の費用を以て實行すべきものなるを議決し、進んで教育當局の手に於てなすや又は貧民救濟當局の手に於てなすべきやと云ふ問題にまで立入つて討議する程であつた。

學校給食は全く教育の効果を大ならしむる目的に行ふものであつて、前に考へられて居た様に救濟的の意味のものでないと云ふ意見が盛に行はれた。此の討議の結果は遂に一九〇六年十二月二十一日學校給食に關する教育法令 (Meal Act) として議會を通過した。そして直に實行に入つた。初めの間スコットランドには此の法令は施行されなかつたが二年を経て同様に行はるゝ事となつた。法令の主旨は『何れの兒童も食物の缺乏のため教育効果を損ぜしめる様な事があつてはならない。栄養不良兒には學校に於て兒童が支拂ひ得る場合はその支拂ひ得る代價を以て給食をなし、支拂ひ得

ざるものは無償にて給食せしむ』と云ふのである。B、給食兒童數並に給食に要する費用 此給食に關する法令が實施されて以來急進的に而も著しく給食事業は發達した。食事數の一例を示すに一九〇七—一九〇八年の一年間に二、七五一、三二六食を與へたに過ぎなかつたが一九一四—一五の一年間には二九、五六〇、三一六食となり十數倍に増

年度	給食せる地方當局の數	給食を受ける兒童數	給食量 (人分)	給食一人分の平均價額
一九一—四	九六	一五、五二	一四、五二五、五九三	二四三
一九二—五	一三四	四三、四〇	二九、五二〇、三三	二四七
一九三—六	二二六	一八、二四	九、九七七、六三四	四・〇
一九四—七	九四	六、三〇	五、七七二、四七	五四三
一九五—八	八八	六、六三	六、五八二、七四	五二六
一九六—九	八六	五、七四	五、四七九、九五四	五九八
一九七—〇	一一八	七、〇三	六、三三三、八二	六九九
一九八—一	一三七	一四、〇六	一〇、四四七、五九六	六六八
一九九—二	一九〇	五九、五八	六〇、六六、〇二七	三八八
一九〇—三	一五八	一四、六六	一七、七一、二九八	三九三
一九一—四	一三六	一〇、三三	一〇、七五、三三〇	—

加した。然し此の事業も大戦争の勃發のため止むなく範圍を制限した爲め其の數は六五〇、三二四〇に落ちた。

食事一回分の價格は戰前一九一四年には二・四七片だったのが一九一七年には五・三三片に増加した。言ふ迄もなく戦争により食品價額も勞働賃

金も上騰したためである。給食を受ける児童數も一九一七年には著しく減少して一九一四年當時の七分の一となつた。今給食児童並に食品價格費用等につき統計的に數字で詳細に表はして見る。
此の表を通覽するに大戦争中は、給食を行へる地方當局數も亦従つて被給食児童數も著しく減少

年 度	給食原料の平均價額	費 用 概 算			養育者より徴 金	雑 收 入
		食 品 費	雜 費	合 計		
一九三一—四	一・六片	六九九九	七五五九	一四七五二九	二九九七	一六六五
一九三四—五	一・五片	一八六三三	一八三〇〇	三〇五〇八三	四三三	二二〇〇
一九三五—六	二・六〇	二〇七九七	六二二八七	一七〇一九四	一一三四	一九九五
一九二六—七	三・三三	八〇二二五	五〇四九〇	一三〇六二五	二八六四	一九四八
一九二七—八	三・二二	八九九八	五二八六六	一四二八三五	一八〇三	二二六一
一九二八—九	三・七三	八五七七五	五二七九六	一三七〇二	二一九〇	三三三三
一九二九—三〇	四・五	一〇九四六	七五〇三八	一八四五二六	三五六三	五〇〇六
一九三〇—一	四・三三	一八四二九三	一〇九四六	一九〇七〇	二八六五	一〇三四
一九三一—二	三・二二	八四六〇〇	一六八五三	九八三二八	一五八三	二七三三
一九三一—三	二・六六	一九〇九九	九〇六三	二八二五二	一七九七	九七七

した。處がそれが戦後に到り給食を要する児童數が激増した爲、止むを得ずして當局は給食を開始し、従つて児童數が著しく増加した事がわかる。給食一人分に要せし費用は大戦中は戦前の二倍又は三倍に増し、大戦終熄と共に減少したが、それでも戦前の五割増位である。總費用の中養育者より徴集せる額は極めて僅かなる量で、戦前は總費用に對し約百分の二に過ぎなかつたのだが大戦中にはそれが百分の十となり、更に大戦直後の一九一九年度には百分の十三となつて最大量を示した。其の後は激減して戦前に復した。寄附金は其の他の雜收入とともに増加し約百分の三となり戦後も此の率を示して居る。即ち給食に要する總費用の八割五分乃至九割五分は政府又は地方當局の負擔である事がわかる。

C、食物給與所 四箇所に分ける事が出来る。

一、教室 二、公認レストラン 三、學校附屬

賄所 四、家庭

右の内教室は特種學校例へば屋外學校又は榮養不良兒學校に用ふる外あまり用ひない。今日の英國の學校建築の状態では食堂の目的に満足に用ひられる教室がない。公認レストラン又は食堂として學校が許可を與へ、之をして食物を供給せしめんとしたが、これは非常に不満足のものが多かつた。不潔になり勝ちで又利益主義の缺點がある。最も都合のよいのはセンター(Center)又はカンチーン(Canteen)と云ふ一種の賄所である。それは學校の近くに設けられ學校當局の監督の下に食物調理、會計を行ふもので現在の方法の中では最も理想のものと考えられて居る。家庭給食の場合は極めて少なくライセスター(Leicester)のボロー(Borough)に一箇所榮養不良兒の家庭へパンと牛乳を送つてやる處があるのみである。

D、食物の調理 食物調理は何等監督指揮なく

商人がなす場合がある。又賄所實務委員の指揮を受けてなす場合もある。何れにしても現在の状態では満足に調理が出来て居るとは言へぬ。商人は勿論賄所委員が榮養の智識即ち調理による榮養分の變化、適當なる食品の配合、兒童の榮養状態に應ずる適當なる處置等に關し智識を有しない。それで、ロンドンとアレキサンダー組合でコントラクトシステム(Contract system)を大仕掛けに行つて食物調理をやつて居るが、成績がよい。

(筆者註　コントラクトシステムと云ふのは町の中央に調理所を設け之より他に運搬配給する方法で夙に日本榮養協會の併用して居る方法である。)

これを見習つて以來、大都市に於ては概ね中央調理所法を採り、此處で調理した料理は保温性の容器に入れて貨物自動車又馬車で各賄所に送られる。然し大都市でも各給與所があまりに散在して居る様な場合は、小都會と同じく各賄所で調理す

る。この中央調理所法は食品の經濟、調理の合理化、勞働費の減少に最も都合がよい。それでこれを一般に實用化させたいと云ふのが當局の意見である。バドフォード町(Badford)の如きは一の賄所委員の手で日々一萬人の兒童に給食して相當の成績を擧げて居る。個々の賄所でも成績のよいものもある。賄所が全部悪いと云ふのではない。給食は必要缺くべからざる事で又非常に効顯大なる處であるがそれは一に食品の性質による處であるから其處を注意深く考慮する賄所ならば單獨でも良い。然し經費の點に於ては不經濟となるをまぬかれぬ。

Ⅴ、給食時　吾人は通常一日に三回の食事を攝る。朝食晝食及夕食である。その内晝食を給與するのが普通で或る時は朝食を給し或る時は三食共給せしめる事などある。朝食と晝食とは何れがよいか未決定であつた。

一九一二年にバーミンガムでは主として朝食を與へ晝食を少くして居た。朝食三七〇九四四回に對して晝食は只二七三九回に過ぎなかつた。處が晝食を與へる方が遙かに成績がよいので朝食給與が漸減して晝食給與が増加した。

一九一六年度には前に示した數字と反對な状態に達した。即ち晝三一五三に對し朝一三二七三であつた。現今は殆んど晝食のみであるが特に必要と認めたる小兒には朝食も與へる。

F、休暇による影響 休暇には給食を中止する。それが爲めに折角給食により増重を來たした兒童が休暇の後は減重するを常とする。それ故休暇中も繼續して行はねば折角給食を行つても其の意義を無くすると云ふので休暇中と雖も給食を繼續する處が多くなつた。一九一四—一五年には給食當局數一三三の内一〇八即ち八一%は休暇も續けた。然し一九一六—一七年になつて戦時中の爲

これが不可能となつたので極めて必要性の大なるものゝみに給したから七二%に減少した。

G、給食の營養學的考察 元來學校給食は學術的根據から家庭食の缺陷を補ふ様に計劃されて初めて効力を生ずるのである。従つて營養分の質並に量に不足があつてはならぬ。兒童には溫量を充分に與へねばならぬ。それで食量を充分攝らしめる必要がある。

又營養分に於ても兒童に特に必要な養分があるので家庭で缺乏する要素を注意して之れを補ふ様にせねばならぬ。英國に於て給食必要兒童の家庭では大抵蛋白質を缺いて居る。無學なる親たちは子供にパン馬鈴薯砂糖などのみを與へるのみであるから著しく蛋白質を缺き含水炭素過剰である。それで學校給食の獻立を見るに朝食はオートミール、パン、牛乳、人造バターから出來上つて居る。これ等の物質から一九・九瓦の蛋白質と二〇瓦の

脂肪と六〇〇カロリーの熱量が攝れる。この朝食の獻立には各都市或は地方によりて著しき差異がないが、晝食には著しき相違がある。晝食中其の三分の二は肉が主となつて三分の一は野菜が主となつて居る。最も普通の晝食獻立は、コッテージ

バイ、グリーンピース、グレイビー、果實スチューなどで三三瓦の蛋白質、二一瓦の脂肪、八四九カロリーを含んで居る。茶か又は夕食が與へられる時があるが、之は極めて簡單なものであつて、パンと人造バターに牛乳位のものである。こんな貧弱な御馳走でも一九瓦の蛋白質、一八瓦の脂肪、四五三カロリーを與へると謂ふ。

學校給食事業は絶へず學校衛生官と提携して行ふべきであつて、常に醫官に食品の榮養價につき相談すべきである。ロンドンに於ける學校衛生施案に於ては一回の晝食に於て一人の兒童に二五瓦の蛋白質と七五〇カロリーを必要と認めて居る。そ

して若し給食せる食物が右の條件に適當なる場合は大抵含水炭素脂肪無機質其他に適當に在るであらうと考へられる。右の獻立並に當局の意見には榮養學者として左擔する事の出来ない事が多い。繁雜のため茲には省略する。

II、兒童の選擇 給食兒童の選擇には二方法を採る。即ち、榮養検査と富力検査とである。榮養検査の結果家庭が貧富如何によらず兒童が榮養不良なる時は之に適食を與へる。富力検査によつて子供に適當な食物を與ふる事が不可能と決定せる場合には其子供に適食を與へる。何處も此の二法を用ひて検査するとよいが富力檢力のみによつて決定して居る處が多い。救済と云ふ觀念がどうしても抜けならしい。一般の場合に富力に於て著しく劣つて居るものは榮養に於ても劣つて居るを恒とする事實はある。學校醫務主任官は必ず二方法を併用する事を獎勵して居る。又給食の目的は

貧兒救濟の目的のみでなく榮養改善が其の大なる目的である事を賄所に知らしめる様力めて居る。

若しか榮養検査をしなければならぬ榮養不良兒が此の給食を受ける事が出来なく、従つて榮養改善の目的を達する事が出来ぬ。小都會では比較的榮養検査が徹底して行はれてゐる。ブライトン、ヘスター (Brighton, Hester) 其の他の小都會では全給食兒童の五〇%は榮養検査により五〇%は貧民兒童より採る。貧民兒童にあらずして榮養不良の兒童も相當にある。それ故榮養の改善と云ふ事を本當に意義あるものにするには家庭經濟上の地位に何等考慮なく榮養不良兒には全部無償で給食する事が必要である。斯くすれば榮養不良兒の改善が出来るのみならず、然らざる際即ち貧民兒童にのみ給食する事によりて起る不快なる差別感を除きデモクラチックとなる。此の意見に對し學校給食を擔任せるバルクレイ (M. E. Bulkeley) 嬢も同感の由

筆者に語つた。

Ⅰ、教育上の効果 給食は教育上非常に効果があるものである事を英國全體が認めて居る。之れは體質の改善によつておこるのみならず、これによつて食品の榮養價值を知り又食品攝取作法に良習慣をつける。例へば食卓クロスは常に清潔にして置く事、食品を供する作法。之を攝る作法、などを習得する。これは家事科學の講義と相伴つて非常によい。或る學校では調理實習級の女生徒に學校の晝食を調へさせる事がある。これは調理の學術と方法を習得させるに甚だ効果があつた。

(つゞく)

× × × ×

× × × ×

疫痢の豫防について

警視廳防疫課長 井 口 乘 海

可愛い幼児にとつて恐るべき疫痢の流行季節を控へて、警視廳防疫課ではこれが徹底的豫防を期し、管内各區各郡部の學校職員を集めて講演會をしてゐる。これは六月二十日本郷區内に開かれたものゝ講演大要である。——文責在記者——

疫痢の流行

近年疫痢が非常に流行してまゐりまして、それが逐年増加して居ります。可愛い子供の命が非常に澤山奪はれてゐるのです。それで警視廳ではこの豫防宣傳について大わらばで、本日も此處に皆さんにそのお願ひに上つた次第です。流行状態をのべますと、

警視廳管内發生數

大正十三年	一五二七 ^人	大正十四年	一五九〇
大正十五年	一七九二	昭和二年	三二五七
昭和三年	四三八八	昭和四年	四五六六

斯様に毎年患者は増して居ります。本年は更に昨年に比べて五割の増加です。

本年一月より六月十九日まで 一七九二^人
 昨年同月同日間 一一八七

流行の月を見ますと六・七・八・九月で、全體の七〇パーセントを占めて居ります。殊に八九月に多いのです。

年齢からみますと、三歳から四歳の子供が八一パーセントです。一二歳の、お母さんの膝に暮し

てゐる間は安全地帯です。お母さんのお乳には病氣に對する抗毒素があります。又七歳以上になりますと、學校で規律的な生活が始まるから割合に尠くなります。學校教育のお蔭だと思つて居ります。ですからお母さんの膝を離れて、學校に上る迄の間のお子さん、可愛い盛りのお子さんにとつて非常に大きな脅威であります。この子供に死なれることは家庭にとつて實に悲惨事です。

死亡率

この疫痢は經過が大變に短かいのです。死亡者の四〇パーセントは二十四時間以内、次の二十四時間に又四〇パーセント、つまり八〇パーセントは發病後四十八時間で死んで居ります。勤人は敵ひませぬ。朝氣嫌よく見送つてくれた子が歸宅して見ればもう駄目になつてゐようといふのだから。死亡率は次表の様に段々少くはなりましたが

それでもまだ助かる方が少い状態です。

大正十四年 七八・一八 大正十五年 七四・八三

昭和二年 六七・八八 昭和三年 六三・六一

昭和四年 六三・四五

そして傳染病だから他の兄弟姉妹が感染して、可愛い子供をみんな奪はれ、ためにお母さんが發狂したといふのがあります。

原因・誘因

原因は大體に於て、赤痢菌です、大人の體に赤痢菌が入るとゆるやかな病状ですが、子供に入りますと、急激に現れます。體質を調べますと腺病質の子供、即ち風を引き易いたちの子供に多いのです。それで皮膚を強くする爲皮膚摩擦はよろしいのです。

動機は第一過食。少々消化の良い物でも過食はいけません。消化の不良のものは勿論いけない。

發病した者をしらべて見ると、バナナ、豆、枝豆、みつめめ、氷水、アイスクリーム、アイスクッキー等です。消化の良い物として質の方は誰でも氣を付けますが、質よりも量の問題に注意が肝要です。先日も疫痢で死んだ報告があつたので早速出かけると「たつた三本のバナナでこんな悲しい事になつて」と泣き亂してゐるお母さんがありました。子供にとつてはたつた三本ぢやありません。

買食。しらべてみると罹病者の六〇パーセントは毎日三十錢宛、三十パーセントは十錢宛の買食をしてゐるが、子供のあの汚い手、あれはドブさらへをした手ですよ。――投げたボールがドブに落つこちる、拾ひあげられたボールで遊んだ手が「ヲパン丁戴な」と食物をつかむんだから。店屋の方では相手が子供だと思つてきつと質の悪くなつたものをさばくものです。そして子供の選擇に任しとくのですから實に混食、雜食極るものです。

今子供に歸つて來られては内職の邪魔になるからといふので、お母さんは「さあこれでもう一度遊んでおいで」と買食の金を投げ出してやるといふ家庭状態が多いのですから托兒所が必要であります。

子供の買食が絶對になくなれば疫痢は半減すると斷言します。これ丈はこの問題だけは是非みなさんのお力で解決したいと思ひます。先生方のお言葉が何より有効です。兄弟が買食しなくなると自然とその下の弟妹のもすくなくなつてまゐりますから。今日はこのお願ひにまゐつたのです。

それから寢冷がいけません。

病 状

頭痛・嘔吐・腹痛・下痢をおこすこの病状だと誰も氣づくから心配ないのですが、元氣だつた子が急にあちらへゴロ／＼こちらへゴロ／＼そしてウ

ト〜と精神朦朧とした様子の方は注意を要します。

熱の急昇。最初は三八——三八・五だったのが三時間後には四十度に急昇します。

便。始めは軟便、そのうち永様便から粘液便となります。間もなくひきつけを起します。

豫防法

親が毎日子供の便に注意すること、便通の有無と便の種類を。それには智識を持つてゐなくちゃいけません。綠色便は絶對安靜を要します。

間食は親が與へる。直前に検査したものを與へる。ゆふべ買って來たバナナをあと一「ぢやいけな。栄養品は腐敗菌のためにも亦栄養品であることを忘れてはなりません。

寝冷えさせぬこと。腹だけおほふのでは駄目、小幼児と雖も太股出すべからずです。そして夜中ゴロ

〜回轉運動しても大丈夫解けないような腹巻やねまきにするのが一等安全です。蒲團をすぐ蹴飛ばします。足首が暑いのですから蒲團を横に着せると大變工合がよろしい。足先は暑くないし、横に轉つても容易にフトンからはぐれませんか。食事前、間食前に手を洗はせる事大抵の人の手から大腸菌が検出されます。手は不潔なものです。きつく手洗の習慣をつけることです。

氷水や蜜柑水を飲ませぬこと。

病氣の手當

若し不幸にして病氣に罹つたら、醫者を迎へる方は他の人に頼んで醫者の來られる迄にお母さんは落ちついて次の處置をしなければなりません。

絶對安靜にして、頭、左胸を冷す。氷や氷嚢が間に合はなければ井戸水だつて水道水だつて結構、それに鹽を加へて、タオルに浸してとに角、早く手當することです。次に下劑ヒマシ油をのま

愛兒を有たる、親達への注意

(警視廳衛生部防疫課編著)

本年は赤痢(疫痢)が非常に流行しますから特に御注意を願ひます。

◎最も危険な年齢と月

一、患者の四割は、三歳から六歳までの幼児。

二、六月から九月まで、殊に七、八の兩月に多い。

◎此病の恐ろしいこと

一、死亡者の八割は發病してから一晝夜たぬ中に、死んでしまふのである。

二、患者三人の中で、二人以上死んで行く恐しい病である。

◎疫痢の病状

一、今迄元氣であつた幼児が、ガツタリしてゴロ／＼したり、
二、急に熱が出て高い時は四十度にも達する。

三、始めは軟い便をもらし、次で水のやうな便となり。それから粘液を交へるやうになる。

四、こんな病状が衰はれたら、先づ「疫痢」と考へてよろし
いのである。

◎預防の心得

一、幼児の便通に氣をつけ、便秘してゐないか又下痢して
ゐないかに注意すること。

二、消化の悪いものや、腐りかゝつたものを與へぬやう、
又食べ過ぎぬやうに注意すること。

三、買喰は止めさせたい、食物は成るべく親が買つて與へ
ること。

四、氷水や蜜柑水などは飲ませぬやうにすること。

五、寝冷えしないやうに腹巻をさせること、晝間でも裸體に
したら矢張腹を冷やさぬやうにしておくこと。

六、食事前又は間食を與へる前には必ず手を洗はせること

◎若しも幼児が發熱したら

一、醫師を迎へて診察を受ける手配を爲すと同時に、一方
には直ぐに床に臥させ、頭と左の胸を冷やし、「ヒマシ
油を(茶匙に二、三枚)砂糖水に浮かせて飲ませること。

せませす。三歳兒には茶匙三杯、四歳兒には四杯、五歳兒には五杯(一匙は五瓦)の分量。間違つても多量の方は差支えありません。油を入れる器は細長いコップより平茶碗の方が飲ませよい。いやがる子供には強制執行で、抱き起して鼻をつまむと口で息をしますからその折にのませませす。そして灌腸して腸内大掃除を致します。ひきつけを起しましたならば舌を噛まないよう詰め物をします。鉛筆でも箸でも綿をまいて齒の間にはさめます。お醫者には往診を願ふこと、抱いて歩きまわつてゐる間に手のつけようもなく、だめになつた話がよくあります。

近年疫痢患者数の増すに係らず、死亡率の低下した事は醫者の來る迄の家庭の手當、處置が進んで來たのによります。それで家庭ではいつもヒマシ油・氷嚢・檢温器・灌腸器などは用意しておくべきです。

久振りて鎌倉に行きて

氏 原 銀

鎌倉の三面を圍む山々、鎌倉町の樹木は皆濃く淺く新緑の色うるはしく装ひ、八幡鳥居通の櫻並木も綠蔭濃やかにして、初夏の風情深し、八幡宮に向ひ行くに、其境内の入口にある反橋と其左右にある橋の、大震災で破壊せられたるも、皆修理整ひ其朱欄の色の橋下の蓮葉の新緑との配合よく、此橋の左右に大なる池あり之れを源平の池と言ふ。頼朝平氏追討の頃夫人政子の大庭平太景義等に命じて此池を掘らしめ、東池に白蓮西池に紅蓮を植ゑて源平の旗色を表はしたもにて、東方より西方を滅ぼすと言ふ意味に象どりしもの、此大池面全體に今や新緑滴る蓮の密生して、其葉面

に白玉の露を宿す風清もゆかしく、其花時の美觀を想像するに餘りあり。夫れより境内に進むに、年経る老樹の鬱蒼せる風致又社殿の後なる大臣山の立木の綠濃き背景に、崇巖の意を深くす。彼の震災に一部を破壊せられし正面の石階も修理せられ、其中程にある有名なかくれ銀杏の大木も、高く四方に新緑の枝葉を伸ばし、其太き根株よりは無數の新芽を出して此木の生氣旺盛のさまを見もめてたし。四十六段の石階を上れば震災に倒壊せし、社殿と樓門は永らく再築中なりしが、全部立派に修理出來上り、其丹朱塗の美しく、六月四日假宮より此新社殿に遷宮の儀を舉行せられたり

と。此再築には主として舊材料を用ひ新材料で補ひたるものなる由、此建築費を聞くに、社殿六萬

五千圓、樓門五萬五千圓、此樓門の左右に弓矢を帶するずいじんの像も其衣冠の彩色の艶に此費用二千六百圓、下宮なる若宮八幡宮の正面階段の修理費三千圓、之れで此鶴ヶ岡八幡宮は其舞樂殿の再建なきのみで、全部復興したものなり、以上の工事は悉皆内務省の手によつて竣成せられしものなりと。追々と海濱に親しむ季節となり、此地にお出の方々は是非とも、御參詣相成て、此崇嚴の美觀を御覽ありたし。

次に鎌倉の幼稚園に付て其あらましを述ぶ。

鎌倉町の幼稚園數は三つ皆私立なり。

一、ハリス紀念鎌倉幼稚園 二十年前の設立で大町電停前の鎌倉教會堂を利用するもの、保母四人幼兒數百二十人、此保母諸氏の幼兒に對しては、皆熱心に温情深く毫もすきのなき保育振りに感心

す、尙スキップの輕快にして優美なる其活躍を參觀す。

二、佛教派潤光幼稚園 昨昭和四年九月の設立で、八幡宮の直下雪の下にあり、保母二人幼兒數二十三人、町家に遠ざかれる閑靜な屋敷町に新築せられ、庭園の設備ある上に附近に廣き明き地あり、幼兒は自由に此處に遊び草花等を摘み來りて、砂場遊びに配し又八幡宮の境内に行きて自然に接觸するを得。此自然に恵まれる、ゆつたりとした氣分を養ふ理想的保育の状態を參觀す。

三、天主教教會附屬幼稚園 本年四月の開園にて由井ヶ濱通芭蕉小路天主教教會内に新築せられたるもので、幼兒數三十人、保母二人で靜かな場所なり、參觀の日は土曜日で此派のおきてで、園にて保育の状態を見る事出來ず、若き保母さんの懇ろなる案内に唯其設備を見て辭したり。

童話 吃驚仰天

——ドンちゃん——

水谷年恵子

一

暑い暑い晩でした。ドンちゃんは家の中で寝るのはいやだと言つて、野原の真中へ行つて寝ました。一面に生えてゐる青草の上へ、ごろりと寝ころぶと、ひやりとして好い心持です。空には美しい星が降る程光つてゐます。涼しい風が天から吹いて來ます。草の中で色々な蟲がいゝ聲で歌を歌つてゐます。ドンちゃんは、

「あゝいゝ氣持だ。」

と言ひながら、朝までぐうつすり寝てしまいました。

眼が覺めると、お天道様が頭の上でかんく照

つてゐました。ドンちゃんは跳起きて駈出しました。ドンちゃんが眠つてゐる中に、鈴蟲や、轡蟲や、機織蟲がドンちゃんの着物の中へ、澤山這入つて來ました。ドンちゃんはそれを知らずに家に歸りました。

ドンちゃんの歸つて來るのを待つてゐたお父さん、お母さんは、ドンちゃんを見ると、

「こらつ。」

と言つてどなりました。すると、

リン、リン、リン、リン。

ドンちゃんの背中が鈴蟲が鳴出しました。

懷の中で機織蟲が、

スイツチヨン、スイツチミン。

お腹の所で轡蟲が、

ガシヤ、ガシヤ、ガシヤ。

と鳴出しました。澤山の鳴く蟲が一時に聲を揃へて、

リオン、リオン。

スイツチヨン、スイツチヨン。

ガシヤ、ガシヤ、ガシキ、ガシヤ。

と鳴立てるので、お父さんもお母さんも吃驚、ドンちゃんも眼をばちくり。

お父さん「ドンちゃんが松蟲になつたあ——」

お母さん「ドンちゃんが轡蟲になつたあ——」

ドンちゃん「ドンちゃんが機織蟲になつたあ——」

二

暑い暑い晩でした。ドンちゃんは家の中で寝られないと言つて、川端へ行つて寝ました。川端に

は芦が茂つてゐて、涼しい川風が吹く度に、

サワ、サワ、サワ。

と鳴りました。空には十五夜の月様が照つて、流れて行く水が金色に光りました。

「あゝいゝ氣持だ。」

と言ひながら、ドンちゃんはぐつすり寝てしまひました。

ビカーリ、ビカーリ。

川端には澤山の螢が飛んでゐました。夜が更けると、螢は疲れて、皆ドンドンちゃんの頭や着物に止つて、羽を休めました。

一匹の螢がドンちゃんの鼻の穴の中へ這入りました。ドンちゃんの鼻が、ヒクツと縮むと、大きくしやみが螢と一緒に、

ハックシヨン。

と飛出しました。ドンちゃんは自分のくしやみに吃驚して眼を覺しました。

月の光で濡れたやうに見える芦の葉が、川風に吹かれて、

サワ、サワ、サワ。

と鳴つてゐます。

「あ、此處は川端か。」

早く家へ歸らないと、又お父さん、お母さんに叱られます。ドンちゃんは夜の明けない中に、急いで歸つて來ました。

そつと家の中へ這入つて來て、暗がりの中を手で探つて、自分の寢床へ横になりました。するとドンちゃんの顔や着物に止つてゐる螢が一時に、

ピカッ、ピカッ。

ピカッ、ピカッ。

と光り出しました。ドンちゃんは吃驚仰天、眼を覺したお父さん、お母さんも吃驚仰天、

お父さん「ドンちゃんが佛様になつたあ——」

お母さん「ドンちゃんが佛様になつたあ——」

ドンちゃん「ドンちゃんが佛様になつたあ——」

三

暑い暑い晩でした。ドンちゃんは家の中で寢たくなひと言つて、山へ行きました。山のお花畑には、よい香の花が一ぱい咲いてゐました。トンちゃんはお花の上へごろりと寢ました。

「あゝいゝ香だなあ。」

ドンちゃんは鼻をひこ／＼させながら、ぐつすり寢てしまひました。ドンちゃんは眠つてゐて、涎の垂れそうな香をかぎました。

舌のとけさうな香をかぎました。

頬べたの落ちさうな香をかぎました。

ドンちゃんはあつちへごろり、こつちへごろりころがつて、

「あゝうまい。」

「あゝあゝいしい。」

と寢言を言ひながら眠つてゐました。ドンちゃん

の顔も、着物も、手も、足も花の香や、花の蜜が一ぱいに着きました。

その中にドンちゃんはお花の中に寝てゐた蜜蜂の上へごろりところがりました。蜂がちくりとドンちゃんを刺しました。

「あ痛つ。」

ドンちゃんは眼を覺して駈出しました。家へ歸つてこつそり寢床へ這入ると、又眠つてしまひました。朝になつて、ドンちゃんが表へ出ると、

ブーン、ブーン、

ブーン、ブーン、

蜜蜂が澤山飛んで来て、ドンちゃんに止りました。

ヒラ、ヒラ、

ヒラ、ヒラ、

蝶々が澤山飛んで来て、ドンちゃんに止りました。

ズロ、ズロ、
ズロ、ズロ、

蟻が澤山ドンちゃんの體へ這上りました。顔も着物も、手も、足も大變です。

ドンちゃんは大聲あげて泣出しました。お父さん、お母さんも大聲立て、騒ぎました。

ドンちゃん「ドンちゃんが花になつたあ——」

お父さん「ドンちゃんが砂糖になつたあ——」

お母さん「ドンちゃんが菓子になつたあ——」

四

暑い暑い晩でした。ドンちゃんは家の中では寢られやしないと云つて、池の端へ行きました。柳の木が一本、池の水の上へ體を差出してゐました。ドンちゃんはその木の上へ乗つて寝ることになりました。今夜も月夜です。

柳の葉の間から、お月様が、ちら／＼見えます、

ピロロ、ピロロ。

遠くの方で誰か笛を吹いてゐます。夜風に、糸のやうな柳の枝が、ゆうらり、ゆうらりと揺れてドンちゃん顔を撫てます。ドンちゃんはいゝ心持になつて、ぐつすり眠りました。

ボツチャーイン。

夜中にドンちゃんは池の中へ落つてきました。夢だか、夢でないのか、ドンちゃんにはわかりません。池の水の中で眼をつぶつたまゝ考へて見ました。

夢かな！

夢でないかな？

どうもわかりません。顔を水の上へ出して、眼を明けて見ました。ぼんやりと見えるのは柳の木です。

「あゝ柳の木から落つてつたのか、さうか。」

ドンちゃんは池の中から這上りました。

家へ歸つたら、夜が明けました。お父さん、お

母さんが起きて来て、どならうとすると、ドンちゃん懐の中のら大きな鯉が、

ピン。

と躍りました。脇の下から赤い金魚が、

ピチ、ピチ。

と飛出しました。裾の方から泥鰌が、

ニヨロ、ニヨロ。

うなぎが、

ニヨロ、ニヨロ。

三人とも吃驚して、

「ドンちゃんが魚に化けたあ——」

五

ドンちゃんはもう遠くへ行かず、今夜は家の前へ筵を敷いて寝ることにしました。土の中から出て来たカナブンが、寝てゐるドンちゃんの鼻の頭に止つてゐました。墓が、

ノソリ、ノソリ。

と這つて来て、そのカナブンブを嘗めて食はうとしてゐます。すると、お腹のすいた黒猫が、眼を光らせてその墓に飛掛らうとしてゐます。黒猫の後は、いぢ悪のブル犬が黒猫を睨んでゐます。

墓が、カナブンブの方へべろりと舌を出した時黒猫が、素早く墓に前脚を掛けました。ワンと其の時、ブル犬が黒猫の尻尾を引ばりました。そしてドンちやんの鼻の先でカナブンブと、墓と黒猫と、ブル犬とが大戦争を始めました。

ブン、ブン、

キコ、キコ、

ニアゴ、ニアゴ、

ワン、ワン、

この騒ぎに、ドンちやんは吃驚仰天、

「うわーっ。」

とばかり飛起きて、家の中へ駈込みました。お父さん、お母さん眼を覺して、

お父さん「ドンちやんどうした。」

ドンちやん「ブン、ブン、キコ、キコ、ニアゴ、

ニアゴ、ワン、ワン。」

お母さん「ドンちやんどうした。」

ドンちやん「ブン、ブン、キコ、キコ、ニアゴ、

ニアゴ、ワン、ワン。」

芝居 人形 小兎とライオン (四幕)

千葉女師附屬幼稚園保母 山 川 幸 枝

第一幕 場所 小兎の家

時 初夏の朝

登場者 小兎、母兎

舞臺 下手に深き木立、舞臺中央より上手に小兎の家あり。

障子を少し開きて母兎が寝てゐる。枕もとに藪ピン等置きてあり。

何處からか鶉の聲が聞えて開幕。母兎目覺めて呼ぶ。

母「うさちやん、おや、うさちやんはどこへ行つたのかしら?——うさちやん(靜かに低く)ほんとにどこへ行つたのかしら……」

やがて歌聲(適宜)とともに下手木立の方より小兎登場キャベツを入れた籠を持つてゐる。家に近づくと歌をやめてそつと中をのぞき込む。

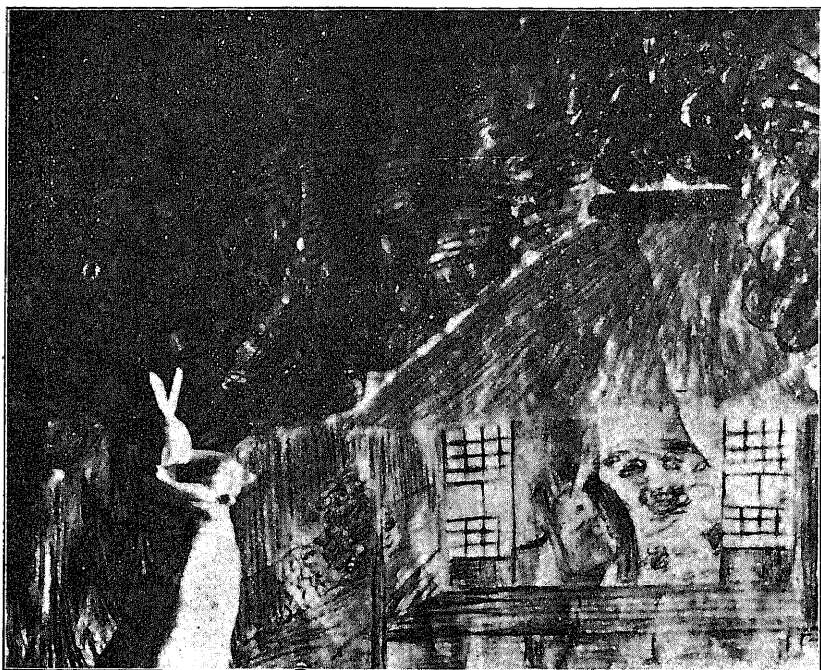
小「やア、お母さんもうお目覺め? 僕ずゐ分早いでしょ、こんなにたくさんキャベツを取つて來ましたよ、ほーら、ネ!」

云ひながら母兎に近寄り籠を置く。

母「まあまあ、あいしさうなこと! これにずゐ分澤山ねえ」

小「えい、それは僕一生懸命で取つたんですもの——あの——それからねえお母さん、鳥で雀さんに聞いたのですけれどお山のいちごがもう真紅になつてそれはそれはおいしいのですつて、僕これから行つてとつて來てもいゝでせう?」

母「さうぬえ?——でもお山の奥には怖いライオン



ンや、虎が居るからよく気をつけて行くのですよ！
 よ！そしてなるべく早く歸つてゐらつしやいな、よござんすか？」

小「えゝ大丈夫！僕は馳るのがとても早いんだからすぐに歸つて來ますよ、ぢやぢ母さん、行つてまゐります。」

母「あゝ、行つてらつしやいな。気をつけてね——」

小兎いそゝとして退場。——幕——

第二幕 場所 森の中

時 朝

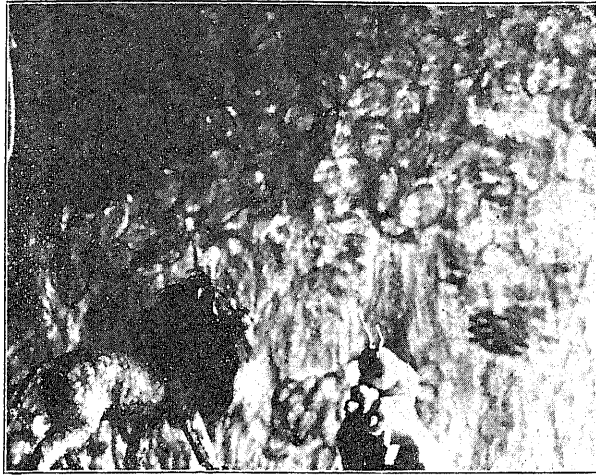
登場者 小兎、ライオン

舞臺 生ひ茂る樹々の根もとに雑草にまじつて眞紅のいちごが所々に見える、森の奥深き感じ。

幕開くと小兎上手より元氣よく登場、いちごを入れた籠をさげてゐる。中央に立どまりそれをのぞき込みつゝホツとした様な氣持で云ふ。

小「あゝ、くたびれた！ あんまり一生懸命で

とつたものだからすつかりつかれちやつた。だけ
どずぬ分ちいしさうないちごだなあ!! そうそ——



早く歸つてお母さんに差上げよう」

勢よく二三歩行つて急に立どまる。

小「おやッ!？」

下手よりライオン大威りで出て来て小兎に近づく小兎思はず
後退りして怖しさうにうづくまる。

ラ「兎吉、お前の家ではなぜ此の頃わしの所へあ
いしいものを持つて来ないのだ、今日はお腹がす
いてたまらないからお前を頭からたべて了つてや
る!」

小兎早口に充分の怖れを含んでもりながら、

小「あッ! ライオンさん、ちよちよつと、待つ
て下さい。僕いそがしいもんだから——あのお母
さんが御病氣なものだからつい何にも持つて行け
なかつたんです、けれど今日はきつと何かあいい
いものをさがして持つて行きますから、どうぞ僕
をたべないでかんにんして下さい。ネッ ライオ
ンさん、お願ひです!!」

ライオン「寸考へてから云ふ。

ラ「よろしい、ではまつてやらう、そのかはり晩

までで持つて来ないとこん度こそはどうしてもお前の事をたべて了ふぞ! いゝか?

小「はい、きつと持つてまゐります」

ライオン更に大威りで上手森の中に退場。

小兎その後を見送つてホツとしながら、

小「あゝよかつた! もう少しでたべられて了ふ所だつたでもあんな約束をして了つたから晩までに何かおいしいものを見つけてはならないし——そうだ、お母さんが心配なさるといけないから早くかへつていちごをさしあげてから又さがしにやつて来よう。」

いそいで下手に退場。

舞臺暫く空、その間に鳥の聲など聞えて時間経過し次第に薄ぐらくなる、と一目さがしつかれた元氣のない小兎登場、考へ込みつゝ舞臺を左右する。

小「あゝア、困つたなあ!! 一日森の中をさがしたのに何にも見つからないんだもの。だけどライオンの所へ持つて行くものがなければ僕がかはり

にたべられて了はなければならぬし——僕がたべられて了つたらお母さんはどうなさるだらう。あゝア、何かいい考はないかしら」

ヤがてふと何かに思ひ到つて手を打つと元氣に叫ぶ。

小「あツ、さうだ!! 物知りのみゝづくのお小父さんに聞いて見よう。何にかいい考を教へてくれるかもしれない。さうださうだ!!」

急いで上手に退場。

——幕——

第三幕 場 所 みゝづくの家

時 夕方

登場者 小兎、みゝづく

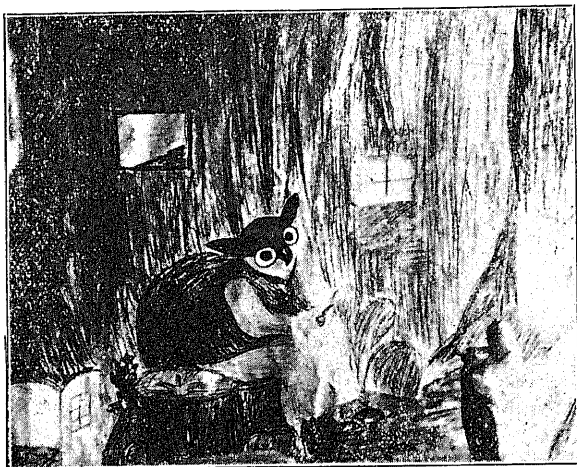
舞臺 密生した大木をくりぬき綴りあはせた家みゝづくその中央の椅子に倚り所在なげに煙管をもてあそんでゐる。その傍には開かれた本、杭木鉢など適宜におかれ下手に入口上手に次の部屋に通ずる扉が半ば開かれてゐる。

カア〜とねぐらさし行く鳥の聲と共に開幕。

ミ「オヤ〜、大分鳥が啼いて行くな——もう夕方になつたと見える。今日は朝から誰も遊びに来

なかつたが——あーア(あくび)」

この時下手入口の扉に小兎おとなふ。



小「今日は——小火さんこんにちは」

ミ「オヤ、誰か来た様だな(獨言の調子にて低く)お入り——」

小兎みづくに近づいて一體。

小「小父さん、御機嫌よう」

ミ「あゝ、誰かと思つたら兎吉君ぢやないか!

よく来たねえ、さあもつとこつちへお出で、お母さんの御病氣はどんな風だネ?」

小「えゝ、ありがたう、もうずつといゝのですけれど——」

兎吉始終浮かぬ面持。

ミ「ほう、それは結構——」

ふと沈んでゐる兎吉に氣づいた様に、

ミ「だが今日は又ばかに心配さうな顔をしてる様だがどうしたの? お母さんにも叱られたの?」

小「いゝえ、小父さん、そんな事ではないんです今日僕、ほんとうに困つたことが出来ちやつたんで小父さんに何かいゝ考を教へていたゞかうと思つて来たのですけれど……」

ミ「困つた事つて? 一體どんな事なのだい?

小父さんも一緒に考へて上げるからまあ話してごらん。」

兎吉少し早口に語る。

小「小父さんも、そらあの山奥の意地悪なライオンの事を知つてゐるでせう？」

ミ「あゝ、あの力持ちのライオンの事だらう？」

小「えゝ、さうです、そのライオンにねえ、僕、けさお山で出あつて了つたんです。そしたらもう

とても恐しい顔をして僕をたべて了ふと云ふんでせう——ぼく怖くてぶる／＼ふるへちやつたけれど

とても一生懸命あやまつたんです。そしたら夕方までにおいしい物を持つて来るなら許してやると云つてやつとかんにんしてくれた所ですけれど。

それからいくらお山をさがしたつて何にも見つからないのですもの、だけど何にもなければ僕が約束通りたべられて了はなければならぬし——ねえ、小父さん 僕どうしたらいいでせう!!」

ミ「ほう、それは怖かつたらう。だけどその位何でもなさ、小父さんがいゝ事を教へて上げるからもつとこつちへお出で」

兎吉近より小首を傾けて時々うなづきつゝ聞く。

ミ「ねッ、ほらたくさんおいしい物を持つて來ようと思つたらお隣の森のライオンにみんなとられて了ひました。つて云へばライオンがきつと怒るだらう!? そこを上手にあの池の所までつれて行くのさ、そしてネ——ホラ……わかつたらう？」

兎吉元氣よく、

小「えゝ! わかりました、ぢや小父さん僕さつた上手にやりますよ!! ありがたう、どうもありがたう、あゝ面白いなあ! では又來ます、小父さん、さようなら——」

ミ「さよなら、又あいで」

兎吉元氣に出て行く。みづく見送りながらつぶやく。

ミ「面白い、面白い! だが兎吉が上手にやつて

くれるといゝが……」

第四幕 場所 池のほとり

時 夕刻

登場者 小兎、ライオン

舞臺 鬱蒼たる木立の影をうこして暗く深く淀んだ青黒い池
水が下方に見ゆる所、池をめぐる樹々の根を危んで雑草が
高々と生ひ茂つてゐる。

幕開くとやがて木の間から話し聲が聲えて来る。

ラ「あゝッ、その隣の森のライオンの居る所はま
だなかなかかい？」

小「いゝえ、もうすぐそこなんです」

ライオンいらくした調子で、

ラ「他の御馳走を横取りするなんて悪い奴だ、見
つけ次第一かみにたべて了ふから——」

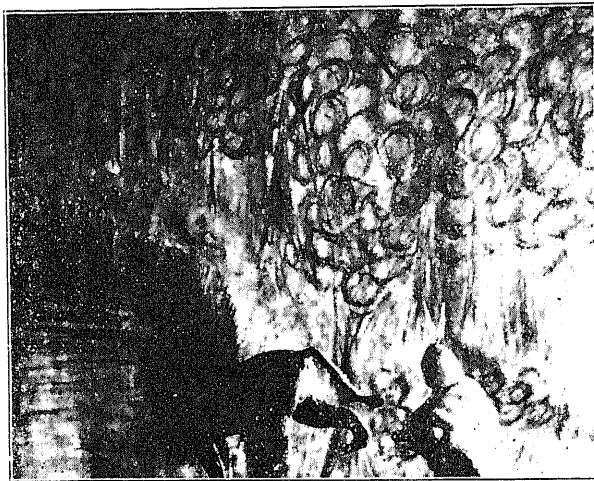
ライオンと小兎登場、池の岸に立どまり下の方をのぞきこみ
ながら、

小「ホラ、ライオンさん、あそこでですよ、あの下
の方に怖い顔をしたライオンが貴君をにらんでゐ
るでせう」

ラ「どれ〜、どこにだ？」

同じくのぞく。

ラ「ウオ——ッ!!」怖しい聲で吠えると身をおど



らして池の中へ飛び込む。

小兎呆然として

Negro. (♩ = 120)

First system of musical notation, measures 1-4. The piece is in 2/4 time with a key signature of one sharp (F#). The melody in the treble clef consists of quarter notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The bass line features chords numbered 2, 3, and 4. Measure 1 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 2 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 3 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 4 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2.

Second system of musical notation, measures 5-8. The melody continues with quarter notes: F#4, G4, A4, B4, A4, G4. The bass line features chords numbered 5, 6, 7, and 8. Measure 5 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 6 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 7 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 8 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2.

Third system of musical notation, measures 9-12. The melody continues with quarter notes: F#4, G4, A4, B4, A4, G4. The bass line features chords numbered 9, 10, 11, and 12. Measure 9 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 10 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 11 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 12 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2.

Fourth system of musical notation, measures 13-16. The melody continues with quarter notes: F#4, G4, A4, B4, A4, G4. The bass line features chords numbered 13, 14, 15, and 16. Measure 13 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 14 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 15 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2. Measure 16 has a bass line with a quarter rest followed by a dotted quarter note G2.

遊戯動
私の手私の足

土川五郎振

- 1 …… 左拳を體前に左腕を少しく曲げて出し右拳にて前膊を打つ
- 2 …… 右拳を出し左拳にて打つ
- 3 …… 手は握りたるまゝ左右に開き後兩腕を曲げて兩側につけ前膊を立てる
- 4 …… 兩手を頭上に突き上げ直に兩腕を兩側に下ろし前膊は兩肩の側に立てる(前と同じ)
- 5 …… 前に突き出して再び兩側に引き前の姿勢に返る
- 6 …… 兩手を兩側下におろす
- 7 …… 左右を相對し兩手(握りたるまゝ)外より下下より内上へと體前にてまはすこと二回
- 8 …… 左足を出すと共に左手を開きて左下に出し之を見る
- 9 …… 又再び兩手をまはす
- 10 …… 右足を出し右手を開き右下に出す
- 11 …… お互に右足を左前に出し右手を取りてこれを上に突き上ぐ
- 12 …… 右足を引くと同時に手を解く
- 13 …… 左足を右前に出し左手を取りて突き上ぐ
- 14 …… 左足を引きて手をとく
- 15 16 …… 足ぶみしつゝ正面を向きつゝ拍手三回
- 1 …… 兩手を腰にし左足を高くあげて下ろす
- 2 …… 右足をあげて下ろす

3 ……左足を前に出し次に左方へ出す

4 ……左足を後方に(膝を曲げて)出し直ちに正位
に戻る

5 ……右足を前、右、に出す

6 ……後ろに出して正位に戻る

7 ……跳んで兩足を開き又跳んで兩足を揃へる

8 ……同じことを繰返す

9 ……左右生相對し跳んで左足前右足後ろに、か
くして二回返す

10 ……跳んで左足前に右足後ろに

11 12 ……右手と右手を取り左足をあげ右足にて跳び
次に右足をあげ左足にて跳び次第に右回轉
をなす

13 14 ……同じくして正面となる

15 16 ……全生手をつなぎ足ぶみ三回

1 2 ……拍手しつゝ左向となる

3 ……左足を一步出し右足をあげ兩手を兩側より

丸くあげ左上を見てとぶ

4 ……右足一步前に左足をあげ兩手丸く頭上にと
ぶ

5 ……左足一步前に兩拳を柔かに左前に出す

6 ……同じく右足前に兩拳を斜右前に出す

7 8 ……兩手を左右に掌下に開き左へバランス右へ
バランス一回

9 10 ……兩足を揃へて三回とびつゝ右にまはる(前
と反對の方を向く)拍手三回

11 12 ……「1 2」と同じ

13 14 ……「3 4」と同じ

15 16 ……全生連手足踏三回兩手を軽く二回より三回
目に兩踵をあげ兩手を高くあげ

夏の草花

大 岩 金

日ましに暑さがきびしくなりますので日中花園を散歩するなどの事は自然と少なくなりませす。しかしこの時でも朝、晝、夕にそれ／＼の花が人まら顔に咲き匂つて居ります。

以下我流に二、三通の方面からみてその栽培法のあらましを申し上げます。

一、涼しい感じのする草花

色から申しますと夏はあつさりとした白色系のもものが涼しい感じが致します。

次に草姿から申しますればあまりごて／＼しない又花物よりも葉物即ち観葉植物の方がよくこの

感じがあらはれると思ひます。

(イ) アスバラガス

百五十種からの種類がありますがその多くは宿根性で、観葉を主として居りますが中に一種食用に供せられるものがあります。

観葉の中で最も普通に栽培されて居りますのは、アスバラガスブルモーサスナナスとアスバラガスブレンゲリーとでありまして前者は直立後者は垂下致します。いづれも初夏の候から新緑の細かい葉を密生しまして嚴冬に至りましても少し保護してやりますれば緑葉を保つのであります。かくて初夏の候になりますれば葉腋に極細かい白

花を點々と開きますので又いひ難い涼味をそへるのであります。これがやがて秋冬になりまして色々の果實の熟する頃となりますれば同じく赤い皮をかぶつた實となりまして又一段の風趣をそへるのであります。

さてその栽培法は誠に容易であります。播種、株分いづれによりましても出來ます。播種する場合には熟した果實の皮をむき三寸鉢に二、三粒づゝ埋めておきますれば凡そ一ヶ月位で發芽致します。是に油粕等の液肥を時に施してやりますれば漸次株を張つて參りますから鉢をゆるめてやればよいのであります。かくて夏はあまり日光の直射しない場所におき充分に灌水してやり、冬はフィルム又は南側の縁側等において保護してやれば更によいのであります。

(ロ) アチアンタム

アスバラガスと同様に鉢としても切花のそへと

しましても夏は勿論年中觀賞されます。これは葉の幅廣く葉柄は赤黒色をして居ります。夏は比較的日蔭におくことが大切であり又水も充分にやつて常に緑したゝるばかりの状態を保たすのでなければ眞のこの葉の妙味は現はれないのであります。

栽培法はアスバラガスと略同様であります。この方は結實しないで葉の裏に胞子を生じ之によつても繁殖出來ますが普通には株分に依つて居ります。又直射光線をさける爲柵下などにおく事もあります。之はなるべくさけた方がよいと思ひます。即ち柵上の植物に灌水した場合鉢を通つた汚水などの爲に應々その綠葉を汚すおそれがあります。

(ハ) おりづるらん

白い斑の入つた細長いつつとした葉を根際近く群がらせたその中から長い數本の匍枝を抜き出し

てその先に又葉と根を生ずるのであります。又この間に春には小さい白花をも開くのであります。是を鉢植とし高所において匍枝を垂下させました様は丁度折鶴をつるした感じが致しますからかく名づけたのではありますまいか。花はさまざま觀賞する程のものでもありませんがこの葉色と草姿がなか／＼面白いものであります。

このありづるらんは常緑の宿根性でありますが寒さには比較的弱く東京邊では露地は勿論鉢植にしましたものでも太い白い根が寒さのために應々腐るのであります。それ故冬期はフレーム又は温室内にとり込まなければ常緑を維持し難いのであります。かくして冬を越しましたものは又陽春の候になりますと新たに匍枝や、葉、根などを發生しますから是はやがて繁殖用ともなり得るのであります。その方法は匍枝の先端に生じたものの根の部分を他の小さい鉢に土を盛りました中に

埋めておきます時は旬日の中によくその鉢内に根を固定して參りますからこの時に至り親木から切斷すればよいのであります。その後の管理はアヌバラガスなどと大同小異であります。

(二) 風知草

一名うらはぐさとも申します。外觀は笹の葉に似て丈低く叢生して居りますので鉢植としましたもので光澤を帯びて居りますので鉢植としましたものなどは朝な夕なの風が来りますやその吹くまゝになほやかに右に左にうちそよぐ風情は夏の暑さも一時は打忘られるばかりの感じがするものであります。

この風知草は極めて株張りのよいものであります。春秋いづれかに適宜小分けすればいくつにも繁殖させる事が出来ます。又川邊の石垣などに自生してゐる事もありません。箱根方面には澤山ありますから折もありますれば採集して參りまして

鉢に植ゑておきますればよい盆栽が出来ます。

盆栽として觀賞しますくなるべく丈を低く致しますには春先伸びました芽を一度早く刈り取るのであります。かくて夏中眺め秋末になりまして葉が枯れて參りましたならば根元から刈り取り之を縁側の下などに置き越冬させて次の春を待つのであります。

(ホ) 鋸 草

高さ二、三尺で葉は地上に廣く擴がりその形は丁度鋸の如く左右から深く分裂して居ります。その葉間から長い花梗を抜き出して直徑三四分の白い頭状花を平に群成しました様は夏の切花として結構なものであります。それに暑い眞盛りに綠葉の土の見えない迄に繁茂しました點はどんなにか涼を増す事とせう。

性質も極めて丈夫でありまして春秋いづれかに株分致しますれば是またいくつにでも繁殖させる

事が出来まして特に施肥の必要もない位なものであります。花色は普通には白でありますが淡紅色をしたものもあります。

二、時に従つて開く草花

一般の草花はその始めは朝に開いて夕方にしぼむのが普通であります。こゝに擧げます花の如きは夫々特有の開花時刻を持つて居ります。是等數種をとり交せて植ゑておきますれば朝、晝、夕それ〴〵に異なつた開花が見られる譯であります。

(イ) 朝 顔

今更事あたらしく申上げます程のものではありませんがさてこの栽培法に就きましてはなかく、それ専門にしてゐる方も澤山あります程に餘程むつかしい物らしく到底その邊に到りましては私共には及びませんから極普通の作り方のみを簡單に

申し上げまして鉢なり垣根なりに數本仕立てまして朝の目ざまし用に栽培されます事をお進め致します。

こゝには鉢仕立にする方法を申し述べまして垣根仕立は之に準じて蔓をのばしてゆく事に致しませう。

まづ朝顔は是を二大別致しまして一つは大輪咲、一つは狂咲とて花輪の大小を問はず花や葉の奇形なのを主眼とするのでありますが子供は勿論大人でも我々素人作りには大輪咲の方が栽培し易くてよいかと思ひます。

播種期は他の一般の春蒔草花のそれよりも少しおくらして八十八夜前後即ち五月初めにするのであります。播種して凡そ一週間位で發芽致しますから二葉が出揃ひましたならばなるべく早く本葉の出ない中に第一回の移植を致します。用土は普通の草花の時と同様でよろしく水排はよいものを

選びます。かくて始め二、三日は日蔭にあきまして日光の直射をさけその後は漸次日光に當て終には充分に日照に當てて夕刻は又充分に灌水し又晝間はよく日に當ててやります。このやうにして一週一度か二度位宛油粕の腐汁の稀めたものを灌水の代りに施肥致します。この時肥料が葉にかゝるやうな事がありましたならば更に水で洗ひ落してやります。又雨天の際にはね上つた泥も同様洗ひ落してやるのであります。かく注意してやります時は終りまでよくその二葉を落さないで居るのであります朝顔作りはこの二葉の存在してゐる事を重大視してゐるのであります。かくして次第に根が鉢内に一杯になり底穴からのぞやうにもなりましたならば次の大鉢に移し又よく肥培して鉢を三回位ゆるめて最後の留鉢が凡そ五、六寸大になるやうにすればよいのであります。

莖の伸びるに従つて葉も次第に數を増し又その

葉腋からは側芽も生じて來るのでありますがその親蔓が五、六寸になりましてもまだ葉腋に生じた芽が蓄てなく葉芽であります時は根元から二芽を残して心を切り去ります。かくて根元に近い丈夫な芽を一本伸ばして他は摘除し残した一本を前の如く培養して參ります。それが數寸になりまして

今度は蓄がみえますれば三四個を置いて心を留め次の豫備枝一本を根元に近くのばしてゆき尙蓄の着かない時は更に二芽を置いて切り直しかく繰り返すこと數回のうちにはやがて花蓄の生ずるものであります。このやうに致しまして充分の施肥と日照とに依りまして大きな美花が觀賞出來るのであります。開花致しましたものは日かげにあげばかなり長くしほまないで居りますがかくしては次の花の爲によくありませんから採種用以外には十時頃になりましたならばその日の花は切りとり日かげにおきましたものもよく日照に當てゝやるや

うに致します。その他の注意と致しましては朝顔も他の草花と同様肥料は回數を等くしても度毎やる濃さは濃厚なものよりも稀いものの方がよろしく、又害虫に對する注意もゆるがせにはなりません。一般には被害は少ない方ではありますが應々にして蚜蟲や夜盜蟲におかされる事があります。

(ロ) 松葉ぼたん

夏日燦然としてかよわい草花は凋れんばかりの中に時も笑顔に只この日中にのみ咲き誇るのはこの松葉ぼたんであります。わけても砂利、敷石などの如き他のものゝ容易に成育し難いやうな所を特に好んで繁茂するのであります。それ故に日常のよい玄關の踏石脇や砂利の中などに群成又は散在させます時はどんなにか外出歸りの家人や又客人などの目を樂ませます事とせう。

その葉は名の如く松葉のそれに似て居りますが太く短く多肉で花は直徑一寸内外で一見牡丹の如

く一重も八重もあり花色には白、黄赤、桃、絞りなど各種類あります。

栽培法は極めて容易でありまして四月上、中旬に播種しその後は間引又は他に移植して適當の距離にすればよいのであります。只前にも申しました通り日照のよい事が最も肝要なのであります。繁殖は播種の外伸びた枝を切り取つて挿木しても容易に活着するのであります。只種子は極めて小さく熟しますと上下に裂けて直ちに飛散し採種出來なくなりますからその期を逸しないやうにしなければなりません。

(ハ) 月見草

まつよい草とも申しますが誠に優しい名前ではありませんか。原野、川原、堤などに自生して居りますが現今では庭にもなか／＼澤山植ゑ込まれて居ります。

高さは二、三尺で線狀披針形の鋸齒をもつた葉

の脇から黄色の花が夏の夕方を待つて開きます。この風情もなか／＼涼味を感じさせるものであります。

草性は極めて丈夫でありますからいづれの土質にもよく成育致しまして又繁殖力も大なるものであります。一株掘り取つて參りますれば容易に殖やす事が出來ます。その時期は春秋いづれかにして花のない時がよいのであります。その外播種致しましてよく發芽致します。

三、香をもつた草花

夏の鉢植や花園には芳香をもつた草花を栽植しておきます事も意義ある事ではないかと思ひまして二つをあげる事に致しました。

(イ) ヘリオトロップ

和名を香水草と申しまして花が誠によい香をもつて居ります。莖はやゝ木質化して居りまして葉

には鋸齒をもつて居ります。花は莖の先端に紫色の小さいのを多数群成して居りまして冬でもフロム中に入れておきます時は開花して居ります。

栽培法は極めて容易でありまして冬期フロム又は温室内に入れる外他の草花の栽培法と異なりません。

それ故少しでも栽培しておきますれば常にその周囲は芳香がたゞよつてゐるわけであります。繁殖は挿木に依つて容易に活着致しますから八、九月頃新梢を切りとり是を挿床に挿しておけばよいのであります。

(ロ) ランタナ

前者の花に芳香を有つてゐる代りに是は葉に香をもつて居ります。しかし前者程よい香ではありません。

木の性状は極めてよく似て居りますけれども更に一層木質化して大きくなればヘリオトロープの

五六寸に比し二、三尺にも伸びます。盛花の時期は同じく夏から秋にかけてでありまして色は赤褐色が普通であります。栽培法はみなヘリオトロープと同様であります。

四、花園に栽植してよい草花

夏の花園は自然となほざり勝になり易い傾きがありますから植ゑます草花を選びますにもこの點に留意して、一つには草性が丈夫で施肥灌水等の少し位は不足しても堪へられるもの、今一つには暑さに丈夫なもの、又病蟲害に對して抵抗力の強いものである事等が條件であります。以下に花壇用とし又は切花用として植ゑておいてよい草花名を少し擧げてみませう。栽培法は略す事に致します。ハルシヤギク、萬壽菊、クジャク草、金鶏菊、百日草、千日紅、ルコウ草、水仙翁、カカリヤ、ヒマハリ、ホーセンカ、貝殼草、コバンサウ

但し前掲のものは除く

「幸吉の旅」

この物語の原名は 'Timothy's Quest' とつて米國の女流作家 Kate Douglas Wiggin 女史の作
で一八九〇年出版である。女史は子供の性格の描寫が巧みなので名高いが、この話も貧民窟の
二幼児が——男の子と女の子とが——田舎へ逃げ出して「母チャン」になつてくれる人を探して
歩く。そしてしまひに心のひがんだ獨身ひきりものゝ女を優しい人にならせるといふ筋である。

全部をすつくり譯出するのは長すぎるし煩はしくもあるので、適宜に所々を省いた點は御了
承願ひたい。

東京女子高等
師範學校教授 岡 田 み つ

一
湊小路みなとこうぢといふ細民窟の町角から二軒目の荒屋あはら。

そこの三番目の室むに白い物が、じつと横たはつて
居て、女が二人番をして居た。それはお房といふ
女の死骸なのだった。

お房は子供を——一切問答抜きで——貰つて育てるのが商賣だつた。四十五年の間友達つていふものも無く、てんで他に親切もしなかつたから、死んだ今となつて花一つ手向けてやる者もなく、「優しい人だつたよ」と言つて涙一滴落としてやる者も無かつた。

通夜をしてゐる女二人も、お房の遺骸を「大事な佛」などと思つて居る風はなかつた。お酒をたつぷり振舞つて貰つたので、二人とも上機嫌だつた。それに、もう午前の四時に近いので、嫌な通夜の勤も直に済むし、十時には死骸が取片付けられる手筈になつてゐたから。

お安婆さんは椅子にくつと身體をはめて、

「お房さんは身につけてる著物のほかに何も無いんだから財産争ひなんてことがないネ」と言つて自分の洒落に悦に入つてゐた。

「さうさ。と相手のお市が引取つて、

「世帯道具から——ろくなんぢやないけれど——お葬ひの入費位出るだらう。もし借りでも残つて居るんなら、貸した人は何て言つたつて取れつこなしだ。」

「氣になるのは子供だけだネ。」とお安が言ふ。

「お前さんも苦勞性だね。——あんな子供の事を心配するなんて。自分の子ぢやなし、それどころか、誰の子だか知れもしない、誰も何とも思つてもしないものを。朝飯でも濟んだら、どこかの養育院に遣つちまやア、それでお仕舞ひだよ。昨日お前さんがお房さんに話した時、あの何て言つたへ？」

「子供をどうしたいンだつて私が訊いたのさ。さうしたらどうでも宜いようにしておくれ、あん畜生ら。私やどうだつて構はないツて言つてネくるりと寝返りをして、それッきり死んぢやつたんだよ。それが遺言さ。だけど、あの人どう

もすつかり正氣ぢやなかつたんだよ。この五六日變だつたもの。」

「なに、自分が内密にしてゐる事を他に言はないもの、そこんとは氣が確かだつたんだ」とお市は言つた。あの子達は一體どこから來たんだか、誰一人知つてるものはないんだよ——もつとも今ぢやあいつらに金が付いてゐないから誰も氣にも留めないが。」

「うん、その事ならネ、お房さんがまだ身上がよくツて山の手に方に居た時分に、あの男の兒の世話料だつて、毎月金が來てゐたつけ。どこから來たもンたか知らないが、何でも遠くからのやうだつたよ。それからといふもの、あの人も酒を飲むよになつてネ、だん／＼零落れてとら／＼半年前に此處へやつて來たンさ。あの男の兒の實家の人だか、金をよこしてた人だか、とにかく先方の人は、お房さんがあんな身持な

のを知らないらしい。どんな様子だか見にも來ないから、先方もたいして案じてもしないんだらうがネ。あの子はお房さんが引取る前は孤兒院に居たンさ。それを私が探り出したのだよ。何しろ三月程前から金が來なくなつたンで、お房さんは、二度手紙を出したンだが何の音沙汰も無かつたの。それで、もう七日か十五日も待つて見て、金が來なかつたら、子供を追ン出しちまふと言つてゐたツけ。一體かう長く手許に置く氣はなかつたンだらうけれど、あの子が赤ン坊の世話をよくするもンだから。」

「ぢや、あの赤ン坊はこの子なの。」

「お前さんも聞きたがりやだネ。」とお安はまた一杯飲み干して「お前さんもどう？ 一杯お上りな澤山あるンだからさ。お房さんはネ、始ツから男の兒の方は嫌ひで、追ン出したクツて仕方がなかつたンだけれど、さうも行かないでネ。」

あれや、變な、ませた子で、あんまり伶俐れいれいいか

ら邪魔じゃまツけな位なんさ。ところがネ、あの子と

赤ン坊とが——名は菊豊きくゆたかツていふんだが、みん

な菊嬢、菊嬢きくぢやうツて呼んでるの、そら、あのよく

此處こゝいらへ來る女優の眞似まねして附けた名だも

の——その二人が仲がよくツて、どうしたつて

離れないんだ。お房おふささんは菊嬢の方を少しは可

愛あいいがつてゐたよ——あの人にも可愛がるツて

ことがあるとすればネ。あの人あの人は子供を苛いぢめた

りしないんだよ。苛めるのも面倒めんどうくさかつたん

だらう。それでネ——エ、何話して居たつて。

さうく、その赤ン坊は誰の子だか、誰が金を

出してゐたんだか知らないが、あの子はいまに

たいした「おきやん」になる事請まことけ合ひだ。あ

の高慢こうまんちきな態度たうどを見るとこのお嬢様おぢやうさまかと思

ふよ。も、ちつと年がいつてゐると、あの子を
私わたしや貰もらひたいと思ふけれど私も此地こゝに、もう居

ないんだから。」

「ぢや、二人を引離したら、いやがつて大變だいへんだら

うネ。」とお市おいちが訊きいた。

「さうだらうよ。だけど、騒さわくだけ騒さわがせて、そ

れでお仕舞しまいひにするのさ。」とお安やすは暢氣さからしく

言つて「お前まへさんが幸吉さききちの方を先さきへ孤兒院こにんえんに連

れて去いつて戻かへつて來たら、私が赤ン坊せきんぼを育兒會こにんかい

の舍へへ連つれて行くでしょう。泣ないたり、わめい

たりするなら、さうさせておけばいい。このお

安やすさんさんにかなふもんか。」

「そんな大きな聲出こゑすのお止としよ。もし幸吉さききちに聞

こえると怒おこつちやつて、こちらこちらら眠ねられやしな

い。愈々いよいよといふ時まであの子に知らせちやいけ

ない。さもないと、それア面倒めんどうになるよ。」

「あいつら、よく眠ねつてゐるよ。」と答こたへながら、

お安やすは半分はんぶん明あいてゐる入口いりぐちを不安ふあんさうに見みやつ
て、「先さき刻とき入いつていつて、幸吉さききちの頭あたまの下したから枕まくらを

引ばり取つたけれど、動きもしなかつたもの。まるで丸太ン棒みたいになつて眠つて居たつけ。菊嬢もさ。もう黙つておいで。私やちよツぱり眠るから。お前さんはその長椅子に横におなり。私は椅子を二つつないだその上でいよ。もし八時に目を醒さなかつたら、起こしてあくンなさいよ。私や、やきもきしたり考へたりして、すつかり草臥れちやつたから、このまゝ一生眠り通せさうだ。」

二

死人の置いてある静な室に、二人の見張りの女の躰が聞こえ出すと、隣りの室の寢床から小さな人影が抜け出した。そして入口の戸を、音のしなように、慄へる手で閉めて、窓の方へ忍びよつて行つた。戸外は汚ない街でその上の灰色の空はほんのり明るくなつてゐた。

そのちいさな影は江崎幸吉だつた。がつひ數時間前に菊嬢を寢かしつけてから、自分の固い寢床に入つたあの幸吉とは別の人間のやうなやつて居た。どきつく胸に手を押し當て、窓のところを慄へて立つてゐる、この子の眼には俄かに覺悟の色が浮び、その大人めいた顔には心配の氣色が新に漂つてゐた。

「菊ちゃんをイクジ何とやらいふ處へなんかやらないやあたいだつて、菊ちゃんと別れて、菊ちゃんを見られないやうな養育院へ行くもンか。」と半分口の内ぞ反抗的に呟いて、幸吉は、その眼を何も知らずに眠つてゐる菊嬢から、入口の方へと移した。その戸は何時なんどき開いて、この大事な大好きな天にも地にも換へられない菊ちゃんと自分を引離すかも知れないのだつたから。どうしようかしら。逃げるンだ！ それより他に途はない。たいしてむづかしい事でもなから。

酷い小母さん達はよく眠つてゐるし、お房ツていふあの怖い人はもう物を言ふ氣遣ひはないし、濼小路の人でさういつまでも追かけて来る者もなささうだから。

「だから」と幸吉は敏捷く考へた。支度をして、きいちやんを連れて、裏口からツウツと抜け出して、ほんとうの田舎へ行かう。田舎へ行けばこないけない人が探しに來ないし、きいちやんの「母ちやん」になつてくれる人が居るだらう。あたいが大きくなつて、きいちやんを引取るようになるまで、可愛がつてくれる人が……かう考へついたらすぐと、幸吉はそれを實行し出した。

お房が最負の女優に因んで名をつけた菊豊の菊嬢は昨夜は着物を著たなり床に入られたのだつた。この子ののとなつてゐる乗物は四つ車輪のついてゐる、そして汚い肩掛の敷いてある洗濯物入

であつた。三尺ばかりの干物綱をその籠に括りつけて、この粗末な乗物に菊姫さまをおのせ申して鬼の住所から救ひ出すといふ寸法なのだつた。幸吉の王子様がお姫様を御起こし申したところで、お姫様はまだお年が行かなくて、御徒歩は出來ないのだつた。であるから、この洗濯物入で御馬車になつて幸吉がその御者になるより仕方がなかつた。

幸吉は、ぼろ寢着を、見すぼらしい平常着に著更へてから、ガタクリ箆筒からたつた一つしかない清潔な前垂と(きいちやんが汚らしい姿だと、母チャン)が見付からないかもしれないと幸吉は心でさう考へて、他所ゆきの帽子とを取出し、それから最後に櫛を一つと、隅つこにあつた色の褪せた繪日傘を持出して、それをお馬車の席に敷いてある古肩掛の下へ押込んだ。それから、彼は薄暗の中を手探りで棚のそこへ行つて、貯金箱を下ろ

した。その貯金箱はげばくしい塗り立てた家の
恰好をしてゐて、その戸口に貯蓄銀行と彫り付
けてあるのだつた。幸吉は、ガラ／＼と振つて見
る勇氣はなかつたが、お房が近頃身體がわるかつ
たから、酒代をこゝから持出しはしなかつたらう
と思つただけだつた。

さアこんだは、兵糧だ。臺所にはお葬式用の菓
子が出来てゐた。その中から、幸吉は急いで十あ
まり煎餅を取つて、タオルに包んで、その他の食
べものと一緒にお馬身の中に隠した。

先づこゝまでは之で宜しと。これからが愈々大
事なところなのだ。胸を早鐘のやうにドキドキさ
せ、怖ろしさに眼を大きくして幸吉は、隣室との
境の戸のところへ進んでいつて、ソウツと明けて
みた。高低二種の音が、盛に駢の音がしてゐるので
やれよかつたと思つた。それから、裏の路地を見
下ろすと、人ッ一人、いや鼠一疋だつて通つてゐ

なかつた。これなら宜いと思つて、幸吉は室に戻
つて、壊れかゝつた洗濯物入れをその細腕で持上げ
て、路地から街路のすこし先の方まで運び出し、
空地の傍の歩道へ下ろした。かうして置いて、彼
は、家へ取つて返した。室の入口に立つて、

「都合よく駢をかいてゐるなア。あたゐ置手紙を
して行かうか……その方がいゝかも知れない……
……さうすれば追ひ掛けて来て、連れ戻したりし
ないかもしれない」

と考へた末、紙袋の裂いたのに一言書いてピンで
戸に留めておいた。その文句は、

「よそのいゝ小母さんとこへもらはれて行くンで
す。とほいとこだから、さがさないで下さい、
さよなら、幸吉。」

といふのだつた。

これですつかり支度は出来たのだつたが、もう
一つ用が残つてゐた。それは一ヶ月程前に奇麗な

子供好きらしいどこかの娘さんが幸吉を日曜學校へ連れて行つてくれて、始終、御祈りをするようにと教へたのであつた。幸吉は、今それを思ひ出して、破れ帽子を柱に引ツかけておいて、菊嬢の床の傍に跪いて、小聲でも祈りをした。

「天にまします神様、どうぞ、きいちやんに「母ちやん」を見付けて下さい。菊ちやんが懐くよらない、母ちやんを。して餘分のがあつたらあたいにも。もし無ければあたいのはいりませせん。洗濯入をあたいのでもないのに取つて行きますけれど御免なさい。あれがないとね、神様、あたい菊ちやんを汽車ンとこまで連れてかれませんもの。それから、日傘も持つて行かないと菊ちやんが日に焦けて、貰つて呉れ者がないでせう。今日は之でふ仕舞ひ、いそぎますから、アメン。」

幸吉は帽子を被つて、身體を屈めて、眠つてゐ

る菊ちやんを抱き上げた——そのいつもかはらず忠實な腕に。菊ちやんは眼を明いたが、大好きな兄ちやんに抱かれてゐるのに安心して、丸ツこい腕で、幸吉の首にしがみ付き、長い呼吸を一つして再夢の國へ遊びにいつてしまつた、赤ン坊の重みに弱りながら、幸吉はその室を出た——あとを閉めるのさへ怖いので戸をそのまゝにして。

路地を出て、角を曲つて幸吉は慄へる足で、ひた走りに走つた。もう向ふにも馬車が見えるところまで來た時に、後方に、走つてくる足音が聞こえた。神經の立つてゐる幸吉の耳には、敵を追かけて復讐しに來た大車の足音のやうに響いた。が怖くて振返つて見る事が出来ない。早く、早く!! 洗濯物入れのそこへ、そして自由の地へ、日傘もいらない、お煎餅も、櫛も、前垂れも——何もいらない。それを貰つて敵が退却してくれるなら。たゞ自分の抱へてゐる捕虜だけは渡すまい。

後方、足音は次第に早くなつて來た。幸吉は、菊嬢を洗濯籠に入れ、切羽詰つて、振り返つて追手を見た。すると、ちいさな、汚らしい、粗毛の、垂耳のまるで襪褌が動いてゐるやうな者が幸吉の膝に跳びついた。そして嬉しそうにクンクン鳴いて、畜生心に思ひつくかぎりの嬌態をして是非驅落の仲間へと懇願するのだつた。

ポチが尾行て來たのだつた！

幸吉はポチで宜かつたと思つた嬉しさに、一寸立ち停つてこの犬を抱き締めてやつた。ポチの方でも、これから先の御飯もろくに食べられさうもない旅を、物狂ほしい程に悦び樂しむのであつた。さて、幸吉は、綱を取り上げて御馬車を徐々と停車場めがけて通りを曳いていつた。

何もかも都合よく運んだ。朝の乳配りに出かける牛乳屋と（もう四時すぎて居たから）ふら／＼した歩調で今時分やつと自宅へ歸る酔拂ひと

に出遇つただけだつた。そんな男は他に頓着するどころでないから、この小さな一行は、何も咎められずに濟んだ。

斯うして、幸吉と、菊嬢と、ポチとは、一組になつて、世の中への旅に出たのだつた。（つゞく）



雜 錄

普通教育圖畫科學理研

鑽の劃て

その提唱者上坂雅之助氏曰く、

普通教育圖畫科が正科目として課せらるゝ限りこれを學理的に究むるの要あり。然るに圖畫科は昔より單に教授法を論ずる程度に過ぎず。然も諸説區々なるが故に一般は去就に迷ふ。

當局は圖畫教授要旨要目を公布し各學校の程度に應じたるものを公布し據る所を明にす。然ども未だこの要旨要目を一貫なせし學理なし。

當局も亦これを認め昨今圖畫科の根本を學理的に究め、教授法の基礎を確立せんと意圖せらるゝと聞く。平常圖畫教育を以て生命となす我等はこの秋に於て圖畫科の根本精神を學理上より樹立しこれを當局に建議すは職責上當然のことなり。

「我等の同士は來る九月下旬を期しこの案を練らんとす」。

この機會に於て平常圖畫教育に思ひを潜め研究を深めらるゝ人々は其の抱負を忌憚なく立案發表せられ我等を教へられんことを希ふ。我等は「可愛い子弟達の本質が素直に、丈夫に、日本人ら

しく生ひ立たんことを」望む爲めに、この教授法の學理發表に努むるものなり。

「研鑽に就て」

研 鑽 議 題 普通教育圖畫科學理
開 會 場 所 市 政 會 館
開 會 期 日 昭和五年九月二十一日午後一時
場 所 費 用 金 五 拾 錢

「意見に就て」

意見取纏準備 掛を設け各自分擔の上、在京者の分に限り取纏めること

- 一 學者側及び地方 上坂雅之助
 - 一 各師範學校側及び實業學校側 板倉贊治
 - 一 美術學校及び學習院側 鷗川俊三郎
 - 一 中學校及び女學校及び小學校側 岡登貞治
- この意見の聚集は普通教育圖畫に従事する人々の全部に求めたり。其の他何人なりとも意見の提出ありたく、在京並びに地方の人々は「期日」迄に十分なる意見の提出を「本部迄に郵送ありたし」

「取纏期日」

昭和五年七月三十一日を切とす。

「意見配付期日」

昭和五年九月一日曩に「衆集の意見全部を研鑽者に配付す」。研鑽者は之を参照し原案を提出するものとす。

「研鑽當日」

一、普通教育圖畫科學理（議題）
右検討の上決議す

議場掛り

上 阪 雅 之 助
板 倉 贊 治
鵜 川 俊 三 郎
岡 登 貞 治

「意見提出に就て」

普通教育の圖畫科は専門畫家の養成とは自ら別ありとは、今に於ては情性用語となれる迄に唱道せられ來りしものなり。茲に眞の合まるゝを知る。然と雖も未だ何人もこの正體を示したるものなく唯單に抽象的に叫ぶが常なり。

今やこれが具體的成案を要求する秋は來れり。苟も圖畫教育の高き位置に坐する人々は卒先以て意見を示し大衆を教へざるべからず。又苟も教育を學問として奉公する人々は更に圖畫教師を教ふるの要あり。殊に地方に在住せらるゝ隠士に成案を有する人々も多からん、是等の人々はこの機會に於て意見の公表を切望するものなり。若し多忙に言を籍り立案發表を避け又は疑問さへ起さ

ざるものは平常自他を偽くの甚しきものなるが故に一考すべし。當局は常に公言して曰く當局に於て普通教育の分科毎に研究機關若くは專任官を設くるを得ず、況や緊縮を旨とする今日に於ては到底望み得ず、この場合或る意味に於て當局は「白紙なり」、諸君が圖畫教育研究に熱き志を有するは感激に堪へず、當局と雖も教育の内容の進展には常に留意する所あるも亦諸君が研究の結果成案を得られしものならんか、當局は悦んで其の說の白紙の上に迎ふべしと言ふ。

過去に於て圖畫教育改善に關し大會を開き決議を行ひ當局に建議せられたること再三に及び。是等の刺戟的運動は能く圖畫教育界を裨益せし効果は偉大なりと稱讚せざるべからず、然と雖も未だ何人も衆知に依り圖畫科の根本原則を學理の上に究めこれを發表したることなし。

殊に過去に於ける圖畫教育改善者の多くは既成概念には何等の反省の餘地を示さず、唯其の概念上に種々異なりたる方法を建設せんと高唱するのみなり、我等は故なく根本改善を計畫せず、唯誤つて異國の教授法を踏襲したるものゝ中に於て日本人の性格に合はぬ教授法は踏襲久しきが故にと稱し持續を許さざる。共に盲目的に古き傳統を無條件に於て復元せしむるが如き非教育計畫を企圖せず。

我等の理想は、眞の日本を永久に健實に進展せしめんが爲めに、其中堅となる將來の國民を導くに正しき圖畫科の學理の下に引卒せんと欲するものなり。この實現に對し古き不渡り手形は我等の努力に依りて有效的に書き換へざるべからず。

希くば意氣にのみ壯にして何事もなし得ざる我等の微意のある所を汲み知識的の援助を與へこの舉をして完成せしめらんことを切に懇願する次第なり。

右研鑽本部は東京府大井町山中四三二七にあり。

文部省主催

幼稚園保姆講習

會場 東京女子高等師範學校

期 間 七月二十二日より七月二十七日迄

講習員定員 約一五〇名

講習員資格 幼稚園長及保姆

學科目及講師

一、終日保育の問題（五時間）

東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三

一、觀察と生活作業（八時間）

同 堀 七藏

一、紙を材料としたる手技（九間時）

東京女子高等師範學校保姆 及川 ふみ

注 意

一、講習員は雜費として一人には約金八十錢を要す。

二、女子講習員にして本校寄宿舎に寄宿を希望する者は必ず七月十五日迄に直接東京市小石

川區大塚町三十五番地東京女子高等師範學校寄宿舎宛に申出づべし 但食事（晝食を除く）其の他會費を併せ一日に附金一圓三十錢の割を以て前納すること。

取扱上の注意

- 一、受講希望者は前各項熟覽の上學科目・會場・職氏合を具し地方長官に申出づべし
- 一、講習員は管内學校教員中より地方長官之を選定す
- 一、地方長官は講習員を選定したるときは講習を受くべき學科目及其の職氏合を記載したる選定書を七月十五日までに夫々當該開設學校長に差出し講習員を開講當日までに講習會場に出頭せしむべし
- 一、地方長官は前表記載の資格を有せざる者と雖特に受講を希望する者は定員外講習員として選定することを得
- 一、開催地方に於ける受講希望者に對しては特に前表の定員を超過して許可することあるべし
- 一、地方長官の選定したる講習員定員を超過して講習上支障を來す虞ある場合は其の一部を削除することあるべし
- 一、開設學校に於て定員外の講習員の受講を許可し若は其の選定員中より其の一部を削除したるときは開設學校より其の旨地方長官に通知す定員外講習員は許可を受けたる者に限り其の他の者は削除の通知なき限り受講し得るものと心得べし
- 一、講習修了者には其の出席日數等を査案し修了證書を授與す
- 一、講習に要する實驗實習費、印刷費其の他雜費は當割學科目講習員の負擔とす

定 規 文 注 告 票

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
 - 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
 - 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内**
- 日本幼稚園協會**
- 一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵便代用の場合には總て一割増）
 - 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 - 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 - 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 - 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ月分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和五年七月十二日印刷納本
昭和五年七月十五日發行
幼兒の教育 第三十卷第六號

不 許 複 製
禁 轉 載

編輯兼發行者 堀 七 藏
東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五

印刷者 須 藤 紋 一
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

印刷所 京華社印刷所
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

告 廣

特等面一頁 金參拾圓	二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓	一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田與松に御申込下さい。

廣島文理科
大學教授
文學博士
久保良英
先生新著

兒童研究所紀要 卷十三

大插圖定價
洋金三元
裝百圓
全十二拾五
一頁拾八錢

教育的に於ては、既に來國たる歐米諸國に重要な位置を占むべき兒童の心理的生理學的的研究を純粹なる學的立場から益々其効果を收めんと企て右益々巨額の國費を擲つて惜まざる今日獨り我邦に、該機調の絶無なるを慨し、久保博士等同好の士が私財を投じて設立せられたる本研究所の貴重なる研究の發表は、恒に現代教育家の根柢的靈感、最新營靈として學界に推獎せらるる。

三十卷內容目次

兒童の體型と性格	文學博士 久保良英
基本選定兒童群に於ける宗教意識の基礎的研究	文學博士 關寬定
死亡原因の相關的研究	文學士 松本順之
練習轉移の研究	文學士 千葉清治
吃音兒の研究	文學博士 久保良英
體力測定、附脚長及び扁平足の調査	文學士 小林一滋
自由畫による幼兒の精神發達測定	文學士 桐原葆見
適性検査法の實施及び檢討	文學士 安藤謙次郎
兒童社會生活の一面に於ける觀察	文學士 青木誠四郎
低學年に於ける團體智能検査法	文學博士 勝岡達郎
	文學博士 久保良英

兒童研究所紀要 合輯

1 2 3 4 合輯 定價四圓五拾錢 送料五拾四錢
5 6 7 合輯 定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢
8 9 10 合輯 定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢

智能検査定用具
ボートル紙型箱入
一組參圓送料拾八錢

團體的智能検査用紙 BA式
定價各冊參錢
本用紙は久保先生の考案になる兒童智能検査の實際的研究唯一の用具。兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具。

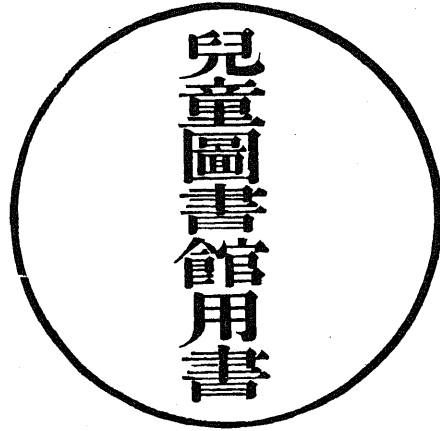
發行所 東京市牛込區中區文館書店 電話 振替 東京 八三三 四三三 二五七 番

成城小學校訓導

奧野庄太郎 著

東西幼年童話新選

梅櫻菊楓
のののの
卷卷卷卷
尋一・二・三
常
年程度



兒童圖書館用書

折角子供の爲にかゝれたグリムやアンデルセンの童話等も其翻譯や翻案が難詰な爲結局大人の讀物となる事は誠に遺憾です童話は飽まで子供の知能、子供の情緒、子供の徳性を培ふ源泉たる筈です。本童話新選は徹頭徹尾、子供の爲に用意された讀物で、極く平易な文章と用字で、特に子供の讀物として適切な活字と組方を研究し、たとひ其一字一句にも子供を對象としての親切さが満ち溢れてゐます。小館は曩に世界著名の童話を紹介すべく學習室文庫を發刊し全國學校から多大の賞讃を得ましたが、本童話新選は右文庫中最も兒童に親炙せるもの數十篇宛を撰び、優雅な装幀堅牢な美本として新たに提供します。何卒各小學校、兒童圖書館並に一般家庭の御必備を希ひます。

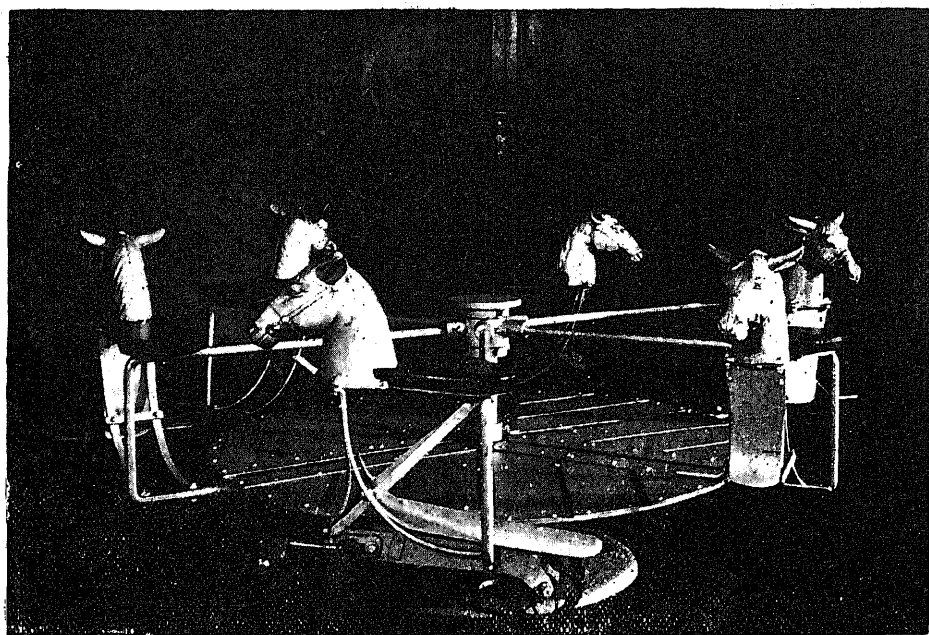
各壹冊の
定價と體裁
各卷
菊判全一冊宛
各卷
總クロス洋綴
各卷
紙數五百頁宛
各卷
插畫四十葉
各卷
彩色畫四葉
各卷
定價二圓宛
各卷
送料廿七錢宛

東京市牛込區
中野區
文館書店

東京東區八三二番

東西童話新選

天のののの
地のののの
人のののの
文のののの
卷卷卷卷
尋四・五・六
常
年程度



新 出 來 的 馬 車 遊 園 車

新 製 品

改 良 メ リ ー ・ ゴ ー ラ ウ ン ド

六 人 乘 定 價 金 八 十 八 圓 也

全 部 鐵 製、永 耐 久 性。

一 人 一 馬 の 首 を 附 け、

自 轉 車 の チ ェ ー ン と 同 理 に て

一 人 が 踏 め ば 六 人 一 緒 に

自 動 的 に 回 轉 す る。

興 味、實 益、外 觀 共 に

比 類 な き 逸 品。

東 京、神 田、教 育 會 館 內

株 式 會 社 フ レ ー ヴ ェ ー ル 館

昭 和 四 年 五 月 十 五 日 第 三 種 郵 便 物 認 可
(每 月 一 回 十 五 日 發 行)

昭 和 五 年 七 月 十 二 日 印 刷 納 本
昭 和 五 年 七 月 十 五 日 發 行

定 價 三 十 五 錢